

鄭 雄一

2 学術論文

- 1) Yoshikawa Y, Sakumichi N, Chung U, Sakai T. Negative Energy Elasticity in a Rubberlike Gel. *Physical Review X* 11:011045,2021.
- 2) Tang J, Katashima T, Li X, Mitsukami Y, Yokoyama Y, Chung U, Shibayama M, Sakai T. Effect of Nonlinear Elasticity on the Swelling Behaviors of Highly Swollen Polyelectrolyte Gels. *Gels* 7:25,2021.
- 3) Manome N, Shinohara S, Takahashi T, Chen Y, Chung U. Self-incremental learning vector quantization with human cognitive biases. *Sci Rep* 11:1-12, 2021.
- 4) Hata Y, Li X, Chung U, Sakai T. Molecular crystallization directed by polymer size and overlap under dilute and crowded macromolecular conditions. *Polymer Journal*, 1-10,2021.
- 5) Tani S, Okada H, Chung U, Ohba S, Hojo H. The Progress of Stem Cell Technology for Skeletal Regeneration. *Int J Mol Sci* 22:1404,2021.
- 6) Yasuda T, Sakumichi N, Chung U, Sakai T. Universal Equation of State Describes Osmotic Pressure throughout Gelation Process. *Phys Rev Lett* 125:267801, 2020.
- 7) Hamamoto S, Chijimatsu R, Shimomura K, Kobayashi M, Jacob G, Yano F, Saito T, Chung U, Tanaka S, Nakamura N. Enhancement of chondrogenic differentiation supplemented by a novel small compound for chondrocyte-based tissue engineering. *J Exp Orthop* 7:1-14,2020.
- 8) Kobayashi M, Chijimatsu R, Hart DA, Hamamoto S, Jacob G, Yano F, Saito T, Shimomura K, Ando W, Chung U, Tanaka S, Yoshikawa H, Nakamura N. Evidence that TD - 198946 enhances the chondrogenic potential of human synovium - derived stem cells through the NOTCH3 signaling pathway. *J Tissue Eng Reg Med* in press. 2020
- 9) Tang J, Katashima T, Li X, Mitsukami Y, Yokoyama Y, Sakumichi N, Chung U, Shibayama M, Sakai T. Swelling Behaviors of Hydrogels with Alternating Neutral/Highly Charged Sequences. *Macromolecules* 53:8244-8254,2020.
- 10) Katashima T, Kagami K, Chung U, Sakai T. Similarity in Linear Viscoelastic Behaviors of Network Formation and Degradation Processes. *Nihon Reorogi Gakkaishi* 48:191-198,2020.
- 11) Kim J, Fujiyabu T, Sakumichi N, Katashima T, Yoshikawa Y, Chung U, Sakai T. Mixing and Elastic Contributions to the Diffusion Coefficient of Polymer Networks. *Macromolecules* 53: 7717-7725,2020.
- 12) Kushioka J, Kaito T, Chijimatsu R, Okada R, Ishiguro H, Bal Z, Kodama J, Yano F, Saito T, Chung U, Tanaka S, Yoshikawa H. The small compound, TD-198946, protects against intervertebral degeneration by enhancing glycosaminoglycan synthesis in nucleus pulposus cells. *Sci Rep* 10:1-12,2020.

- 13) Tani S, Chung U, Ohba S, Hojo H. Understanding paraxial mesoderm development and sclerotome specification for skeletal repair. *Exp Mol Med* 52:1166-1177,2020.
- 14) Onodera S, Saito A, Hojo H, Nakamura T, Zujur D, Watanabe K, Morita N, Hasegawa D, Masaki H, Nakauchi H, Nomura T, Shibahara T, Yamaguchi A, Chung U, Azuma T, Ohba S. Hedgehog Activation Regulates Human Osteoblastogenesis. *Stem Cell Rep* 15:125-139,2020.
- 15) Zujur D, Kanke K, Onodera S, Tani S, Lai J, Azuma T, Xin X, Lichtler AC, Rowe DW, Saito T, Tanaka S, Masaki H, Nakauchi H, Chung U, Hojo H, Ohba S. Stepwise strategy for generating osteoblasts from human pluripotent stem cells under fully defined xeno-free conditions with small-molecule inducers. *Reg Ther* 14:19-31,2020.
- 16) Shinohara S, Manome N, Suzuki K, Chung U, Takahashi T, Okamoto H, Gunji Y, Nakajima Y, Mitsuyoshi S. A new method of Bayesian causal inference in non-stationary environments. *PLoS One* 15:e0233559,2020.
- 17) Shinohara S, Manome N, Suzuki K, Chung U, Takahashi T, Gunji P, Nakajima Y, Mitsuyoshi S. Extended Bayesian inference incorporating symmetry bias. *Biosystems* 190:104104,2020.

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 日本再生医療学会理事（2010年3月より）
- 2) 日本バイオマテリアル学会評議員（2006年4月より）
- 3) Regenerative Therapy(日本再生医療学会公式英文誌), Associate Editor
- 4) Science and Technology of Advanced Materials (STAM), Associate Editor
- 5) 検体検査機器の安全規格の JIS（日本工業規格）化委員長（2017年4月より）
- 6) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 非常勤顧問（2018年2月より）

5 社会貢献

- 1) 世界保健機構（WHO）： WHO 高齢化部門が主催する Clinical Consortium on Healthy Ageing 専門家（2017年より）
- 2) 国際標準化機構（ISO）： TC210（医療機器品質共通標準） 国内対策委員長（2013年4月より）
- 3) 厚生労働省：国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する協議のためのワーキンググループ 委員（2015年3月より）

6 講演，放送

- 1) Digital Roundtable 「肺高血圧症と COVID-19」開催（6月20日、オンライン、ジョンソンエンドジョンソン社との共催セミナー）
- 2) アイデアピッチコンテスト「病のない未来」開催（11月22日、東京都内+オンライン、ジョンソンエンドジョンソン社との共催）

- 3) Digital Roundtable 「免疫疾患と COVID19」開催（12月10日、オンライン、ジョンソンエンドジョンソン社との共催セミナー）

7 学会等での活動

（口頭発表のみ）

- 1) 北條宏徳、齋藤琢、小野寺晶子、東俊文、鄭雄一、大庭伸介：Runx2は骨格発生においてクロマチンランドスケープを規定する 第38回日本骨代謝学会学術集会，オンライン，2020.10.9-11.

8 学内教育活動

- 1) 未病特論
- 2) フィールド実習（IA、IB、IIA、IIB）
- 3) ヘルスイノベーション演習基礎
- 4) ヘルスイノベーション演習

9 学内各種委員会活動

- 1) 教育研究審議会
- 2) 幹部会議
- 3) 学長補佐会議
- 4) 将来構想検討委員会
- 5) SHI 運営委員会・教授会
- 6) CIPセンター運営会議・プロジェクト運営会議

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

[東京大学での受託]

- 1) JST 革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）「自分で守る健康社会：Self-managing Healthy Society COI 拠点」（研究代表者），平成 25 年度-33 年度
- 2) 基盤研究(S)「シグナル因子と三次元構造材料を統合する「四次元足場システム」の創製」（研究代表者），平成 28 年度-32 年度

昌子 久仁子

3 その他の著作

- 1) 「薬事法改正」 レギュラトリーサイエンス誌 2020年 Vol.51 No.6/7

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) (一財) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団アドバイザーメンバー
- 2) 国立研究開発法人 日本医療開発機構 課題評価委員会委員
Cicle 課題評価委員
先進的医療機器・システム等技術開発課題評価委員長
官民による若手研究者発掘支援事業課題評価委員
ウィルス等感染症対策技術開発事業課題評価委員
- 3) 国立研究開発法人 日本医療開発機構 研究・経営評価評議会委員
- 4) 国立研究開発法人 日本医療開発機構
先進的医療機器・システム等技術開発事業プログラムオフィサー
- 5) (一社) 機械振興協会 経済研究所 上級研究員
- 6) (公財) 医療機器センター 医療機器産業研究所 上級研究員
- 7) 早稲田大学医療レギュラトリーサイエンス研究所 招聘研究員
- 8) (公財) がん集学的治療財団 医療機器委員会委員
- 9) (公財) 神戸医療産業都市機構 戦略推進アドバイザー
- 10) (公財) マルホ・高木皮膚科学振興財団 理事
- 11) 筑波大学 Research Studio メンター

5 社会貢献

- 1) 学校法人 東京理科大学 理窓会 常務委員 通年
- 2) 学校法人 東京理科大学 評議員 通年
- 3) 在京島根県立浜田高校同窓会 会長
- 4) (一社) 機械振興協会 医療政策研究会 主査 通年
- 5) (一社) 機械振興協会 AIによる産業革新に関する研究会 通年
- 6) メドテックグランプリ KOBE 審査委員 2020年10月

6 講演，放送

- 1) 東京大学公共政策大学院 大学院生を対象に“イノベーターな医療機器の開発と導入”について講演 2020年10月
- 2) (公財) 神戸医療産業都市推進機構 職員を対象に“医療機器開発の歴史とこれから”について講演 2020年11月

7 学会等での活動

- 1) DIA 「医療機器開発シンポジウム」 プログラム委員 2020年7月

- 2) 日本医療機器工業会 「2020年診療報酬改定」 講演 2020年8月
- 3) 日本医療・病院管理学会 「費用対効果の世界」 講演 2020年10月
- 4) DIA 「HEOR シンポジウム」 総括 2020年10月

8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション概論
- 2) 医薬品医療機器開発
- 3) 組織マネジメント
- 4) 主任指導教官（2020年度1名、2021年度1名）
- 5) 副指導教官（2021年度2名）

9 学内各種委員会活動

- 1) 人権倫理委員会
- 2) SHI 学生委員会
- 3) SHI 企画委員会
- 4) SHI 人事評価委員会
- 5) SHI 昇任審査委員会

大西 昭郎

3 その他の著作

- 1) 「医療機器を介した更なるイノベーションの実現に向けて ―具体的な指標からエコシステムを再考する―」(共著他1名), 一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス誌 2020年5月 Vol.51 No.8 pp.395-403

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 厚生労働省 独立行政法人評価審議会 委員 (2016年7月～)
- 2) 厚生労働省 国立研究開発法人評価審議会 委員 (2016年7月～)
- 3) 科学技術振興機構 COI ストリーム ビジョンメンバー (ビジョン1担当) (2014年4月～)
- 4) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 評議員 (2013年6月～)

7 学会等での活動

- 1) 2020年9月「医療機器開発概論」MA エキスパート研修講座 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 MA エキスパート研修
- 2) 2020年3月2日、2020年度東京大学医療技術評価国際シンポジウム「新型コロナウイルスパンデミックと医療技術評価の役割」にて総合討論「ウイズコロナ時代に医療技術評価が果たすべき役割」の進行役として参加

8 学内教育活動

下記の二つの英語での授業を担当。アンケートや学生の意見から貴重なフィードバックを得、講義の改善に生かしている。

- 1) ヘルスイノベーション概論
- 2) 組織マネジメント

9 学内各種委員会活動

- 1) 入試委員会委員(2019年度～2020年度)
- 2) 教務委員会委員(2019年度～2020年度)
- 3) 運営委員会委員(2019年度～2020年度)

14 その他

- 1) 東京大学公共政策大学院客員教授、慶應義塾大学医学部特任教授を兼務

川村 顕

2 学術論文

(原著論文)

- 1) Cheolmin Kang, Akira Kawamura, Haruko Noguchi (in press), “Benefits of knowing own health status: effects of health check-ups on health behaviours and labour participation”, Applied Economics Letters, <https://doi.org/10.1080/13504851.2020.1786001> (査読あり)
- 2) Shuhei Kaneko, Haruko Noguchi, Rong Fu, Cheolmin Kang, Akira Kawamura, Shinsuke Amano, Atsushi Miyawaki (2020), “Differences in cancer patients’ work-cessation risk, based on gender and type of job: Examination of middle-aged and older adults in super-aged Japan”, PloS one, 15(1), e0227792. (査読あり)
- 3) Haruko Noguchi, Shun-ichiro Bessho, Koichi Ushijima, Akira Kawamura, Ryuichi Tanaka (2020), “Relationship between School Attendance Support and Academic Performance: An Analysis of Panel Data from Adachi Ward”, Public Policy Review, 16(6), pp.1-22. (査読なし)
- 4) Shun-ichiro Bessho, Haruko Noguchi, Ryuichi Tanaka, Koichi Ushijima, Akira Kawamura (2020), “Building an Administrative Database of Children”, Public Policy Review, 16(6), pp.1-20. (査読なし)

(報告書)

- 1) 野口晴子、川村顕、朝日透他(2020)、「職業・地域に着目した生活習慣病と労働生産性との関連について：先行研究レビュー」、令和元年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「産業別・地域別における生活習慣病予防の社会経済的な影響に関する実証研究」分担研究報告書、pp.10-51.
- 2) 川村顕、野口晴子、姜哲敏(2020)、「産業・職業類型・地域別、生活習慣病の罹患率の状況」、令和元年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「産業別・地域別における生活習慣病予防の社会経済的な影響に関する実証研究」分担研究報告書、pp.52-59.
- 3) 川村顕、野口晴子、及川雅斗(2020)、「自治体における保険事業政策の変移に関する記述的分析：費用額による評価」、令和元年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「産業別・地域別における生活習慣病予防の社会経済的な影響に関する実証研究」分担研究報告書、pp.60-71.

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 早稲田大学 ソーシャル&ヒューマン・キャピタル研究所 幹事・招聘研究員
- 2) 足立区・研修員(教育データ基盤整備)

5 社会貢献

- 1) 神奈川県主催(イノベーション政策研究センター受託事業)「健康づくりのためのデータ活用研修 2020」 講師

- 2) 神奈川県未病産業研究会主催(イノベーション政策研究センター受託事業)「超入門・公衆衛生学講座(医療経済学)」 講師
- 3) 早稲田大学政治経済学術院 客員教授
- 4) 早稲田大学政治経済学術院 非常勤講師 (政策評価のための応用計量経済学 A/B、医療経済学専門研究セミナー、計量経済学専門研究セミナー)
- 5) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 非常勤講師 (経済理論 I)

7 学会等での活動

- 1) Japan and the World Economy (Elsevier) 査読者

8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 「医療経済学」(修士1年後期)
- 2) ヘルスイノベーション研究科 「データサイエンス」(修士1年前期)

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 運営会議 委員
- 2) ヘルスイノベーション研究科 教務委員会 委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 学生委員会 委員
- 4) ヘルスイノベーション研究科 教員採用審査員
- 5) ヘルスイノベーション研究科 昇任人事審査員
- 6) ヘルスイノベーション研究科 入学選考委員
- 7) 神奈川県立保健福祉大学誌 査読委員

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 「産業別・地域別における生活習慣病予防の社会経済的な影響に関する実証研究」(研究代表者:野口晴子), 厚生労働科学研究費補助金, 2019年4月-2022年3月, 研究分担者.
- 2) 「科学的根拠に基づく健康政策の実現に向けて—文理融合によるビッグデータの利活用」(研究代表者:野口晴子), 日本学術振興会: 挑戦的研究(開拓), 2019年6月-2023年3月, 研究分担者.
- 3) 「子どもの人的資本に係る科学的根拠の創出と実装:官学協働による政策評価過程の開発」(研究代表者:野口晴子), 日本学術振興会: 基盤研究(A), 2019年4月-2022年3月, 研究分担者.

14 その他

- 1) 令和3年度大学入学共通テスト 試験監督

坂巻 弘之

1 著書

- 1) 坂巻弘之：薬剤経済学。「医薬品情報学 第5版」(山崎幹夫(監修)、望月真弓、武立啓子(編集)) 2021 Mar. pp.173-181, 東京大学出版会(東京)

2 学術論文

[学術論文一査読あり]

- 1) Watada H, Sakamaki H, Yabe D, Yamamoto F, Murata T, Hanada K, Hirase T, Okamura T: Cost-Effectiveness Analysis of Linagliptin in Japan Based on Results from the Asian Subpopulation in the CARMELINA® Trial. Diabetes Ther. 2020 Aug.; 11:1721-1734.
- 2) Shinya Ohno, Yirong Chen, Hiroyuki Sakamaki, Naoki Matsumaru & Katsura, Tsukamoto (2020): Factors associated with humanistic burden and indirect cost among patients with cancer in Japan. J. Med Economics. 2020 Nov.; 5:1-9.
- 3) Shinya Ohno, Yirong Chen, Hiroyuki Sakamaki, Naoki Matsumaru, Motoaki Yoshino, and Katsura Tsukamoto: Humanistic burden among caregivers of patients with Alzheimer's disease or dementia in Japan: a large-scale cross-sectional survey. J. Med Economics. 2021 Jan.; 6:1-33.

[学術論文、論説論文一査読なし]

- 1) 坂巻弘之：多様なモダリティ開発と薬剤費コントロールをいかに両立するか。国際医薬品情報。2020年1月13日；No.1145：7-13
- 2) 坂巻弘之：医薬品の安定供給確保に関する諸外国の取り組み。国際医薬品情報。2020年7月13日；No.1157：18-21
- 3) 坂巻弘之：医薬品の安定供給に関する最近の議論について(1)安定供給に関わる問題構造。Monthly IHEP。2020年8月；No.199：1-5
- 4) 坂巻弘之：医薬品の安定供給に関する最近の議論について(2)諸外国における医薬品供給不足への取り組み。Monthly IHEP。2020年9月；No.200：1-6
- 5) 坂巻弘之：医薬品の安定供給に関する最近の議論について(3)医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議の議論と今後の方向性。Monthly IHEP。2020年10月；No.201：6-9
- 6) 坂巻弘之、舟越亮寛、安室修、伊勢崎竜也：医療機関におけるバイオシミラー採用ならびにフォーミュラーの現状。国際医薬品情報。2020年8月24日；No.1160：18-21

3 その他の著作

[解説、報告書、その他の著作]

- 1) 坂巻弘之：イノベーション推進と薬剤費コントロールを実現する薬価制度の議論が重要。日本医事新報。2020年2月22日；No.5000：40
- 2) 坂巻弘之：高額医療技術は保険収載の議論より価格設定のあり方が重要。日本医事新

- 報. 2020年4月25日; No.5009: 63
- 3) 坂巻弘之:「新型コロナウイルス感染症における医薬品供給不安に備えよ. 日本医事新報. 2020年5月23日; No.5013: 66
 - 4) 坂巻弘之:類似薬効方式による高額再生医療製品償還価格算定の問題点. 日本医事新報. 2020年7月4日; No.5019: 62
 - 5) 坂巻弘之:高額薬価で既存ルールに限界、新技術の価格設定に標準的原価モデルの検討を. 日本医事新報. 2020年8月1日; No.5023: 62
 - 6) 坂巻弘之:『オーソライズドジェネリック』はジェネリックの扱いでよいのか? (1)形を変えた長期収載品依存. 日本医事新報. 2020年9月19日; No.5030: 54
 - 7) 坂巻弘之:『オーソライズドジェネリック』はジェネリックの扱いでよいのか? (2):薬剤費コントロールの効果が減少. 日本医事新報. 2020年9月26日; No.5031: 58
 - 8) 坂巻弘之:『オーソライズドジェネリック』はジェネリックの扱いでよいのか? (3):バイオ医薬品も一物2価に. 日本医事新報. 2020年11月28日; No.5040: 56
 - 9) 坂巻弘之:ジェネリック医薬品ロードマップ、ポスト80%は“80%の堅持”が現実的. 日本医事新報. 2020年12月12日; No.5042: 61
 - 10) 坂巻弘之:薬価の毎年改定の課題(1)－製薬企業経営への影響を検討すべき. 日本医事新報. 2021年1月30日; No.5049: 57-58
 - 11) 坂巻弘之:薬価の毎年改定の課題(2)－毎年改定はどうあるべきか. 日本医事新報. 2021年オンライン上への公開

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

[官公庁委員]

- 1) 厚労省医政局経済課: バイオ医薬品の使用促進に係る普及啓発等事業 (委員)
- 2) 厚労省医政局経済課: 後発医薬品ロードマップ検証検討事業 (委員、座長代理)
- 3) 厚労省保険局医療課: 診療報酬改定の結果検証に係る特別調査－後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査 (委員)
- 4) 厚労省保険局医療課: かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査 (委員)
- 5) 厚生労働省医政局: 医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議 (委員)

[学会, 協会, 公的団体の委員、客員研究員など]

- 1) 公益財団法人医療経済・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 客員研究員
- 2) 国際医薬経済・アウトカム研究学会 International society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research(ISPOR)、アジア太平洋 理事、日本部会 評議員
- 3) 日本医療・病院管理学会 会員
- 4) 日本薬学会 会員
- 5) 日本医療マネジメント学会 会員
- 6) Drug Information Association(DIA) 会員
- 7) 日本レギュラトリーサイエンス学会 会員
- 8) 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 客員研究員
- 9) 公益財団法人 医療科学研究所「医療と社会」 編集幹事

- 10) 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ財団 理事
- 11) 公益財団法人慈愛会 評議員
- 12) 単回医療機器再製造推進協議会 特別会員
- 13) 一般社団法人日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会 (JUMP) 医療情報利活用推進委員会 委員

6 講演, 放送

[企業等における講演]

- 1) 坂巻弘之: バイオシミラーと医療経済 (医療関係者向け web 講演会、座長と講師). 2020年7月28日、サノフィ株式会社主催
- 2) 坂巻弘之: バイオシミラーと医療経済 (医療関係者向け web 講演会、座長と講師). 2020年11月26日、セルトリオン株式会社主催
- 3) 坂巻弘之: バイオシミラーと医療経済 (医療関係者向け web 講演会、講師). 2020年11月28日、Endocrinology Debate and Global Exchange in Japan(EDGE-J; サンド株式会社共催)
- 4) 坂巻弘之: 医療機器と医療経済 (社内講演会、講師) 2020年12月8日、サクラ精機株式会社
- 5) 坂巻弘之: バイオ医薬品、再生医療等製品の市場状況 (医療関係者向け web 講演会、講師). 2020年12月25日、株式会社矢野経済研究所主催
- 6) 坂巻弘之: わが国の社会保障制度改革の概論 (製薬企業向けオンデマンド web 講演会、講師) 2021年1月から、学校法人医学アカデミー主催
- 7) 坂巻弘之: 感染症クライシス～わが国の医薬品サプライチェーンの問題点～ (企業経営者向けセミナー、講師) 2021年1月15日、(New Business アカデミー、一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会主催)
- 8) 坂巻弘之: バイオシミラーと医療経済 (医療関係者向け web 講演会、座長と講師). 2021年1月25日、マイラン EPD 合同会社主催

[マスコミ等への引用]

- 1) 水虫治療薬に睡眠導入剤混入 小林化工に116日間の業務停止命令. NHK ニュース 2021年2月9日
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210209/k10012857601000.html>
- 2) ジェネリック医薬品大手「日医工」に業務停止命令 富山県. NHK ニュース 2021年3月3日 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210303/k10012895411000.html>
- 3) ジェネリック普及に逆風. 中日新聞朝刊 2021年2月9日 19頁
- 4) 逆境製薬 (中) 後発薬やんだ追い風. 読売新聞朝刊 2021年1月29日 8頁
- 5) 信頼を取り戻すために何が必要か—相次ぐ後発品企業の不祥事. 日刊薬業 15550号 2021年1月25日 15-16頁
- 6) 2021年コロナ禍であなたの持病薬が消える!. 女性自身 2021年1月19・26日号 48-49頁
- 7) ミスや違反重ね—2人で作業 守らずに出荷前検査見逃す. 読売新聞朝刊 2020年12月13日 37頁

- 8) バイオ後続品に AG の壁―「普及を阻害」と指摘相次ぐ。薬事日報 12370 号 2020 年 10 月 16 日 1 頁
- 9) コロナ禍で赤字経営「第 3 波」拍車か―医療機関厳冬の予感。東京新聞朝刊 2020 年 11 月 17 日
- 10) GE 原薬問題への提言：原薬問題、欠品を前提としたリスク管理を 神奈川県立保健福祉大大学院・坂巻教授、監視や代替薬リストアップなど 日刊薬業 15436 号 2020 年 7 月 30 日 3-4 頁
- 11) 医療費、医師数抑制長年の政策の誤り―このままでは地域医療崩壊。東京新聞朝刊 2020 年 6 月 14 日

7 学会等での活動

[学会等での講演・発表・会議録]

- 1) 坂巻弘之：バイオシミラーと医療経済（オンデマンド web 講演）。日本小児内分泌学会特別学術集会 2020 年 8 月 19 日（サンド株式会社共催）
- 2) 坂巻弘之：リアルワールドデータ企業への期待、利用可能性と課題―。（基調講演ならびに座長）。ISPOR 日本部会講演会。2020 年 9 月 16 日（web 開催）
- 3) 坂巻弘之、村田達教、大野慎也：費用対効果評価制度で生まれる新しいキャリアパス（パネルディスカッション座長）。第 58 回日本医療病院管理学会学術総会。2020 年 10 月 3 日（web 開催）
- 4) 鄭 雄一、坂巻弘之、渡邊 亮：公衆衛生活動と専門職教育の統合；新型肺炎対応をきっかけとして―神奈川県立保健福祉大学における専門職教育と公衆衛生活動の統合に向けた取り組み。第 79 回日本公衆衛生学会総会抄録集。2020 年 10 月；p.181
- 5) 坂巻弘之：バイオシミラー普及に関するこれまでの取り組みと今後の議論（基調講演とパネルディスカッション座長）。第 6 回バイオシミラーフォーラム。2020 年 10 月 14 日（web 開催）
- 6) 坂巻弘之：日本の医療制度におけるイノベーションと持続可能な医療の実現に向けて―投資と改革への最優先事項―（web パネルディスカッション、パネリスト）2020 年 11 月 25 日、The Economist 主催

8 学内教育活動

[学内教育活動]

- 1) ヘルスイノベーション研究科：医療技術評価（前期・後半）
- 2) ヘルスイノベーション研究科：医薬品・医療機器開発論（後期・前半）
- 3) ヘルスイノベーション研究科：ヘルスイノベーション演習基礎：担当学生 2 名
- 4) ヘルスイノベーション研究科：ヘルスイノベーション演習
- 5) 修士論文指導（1 年生 2 名、2 年生 2 名）

[他大学出講による教育活動]

- 1) ヨンセイ大学グローバル健康研究センター 客員研究員
- 2) 帝京平成大学薬学部 非常勤講師：「社会保障制度論」を担当。（Web による授業、2020 年 4 月 23 日～5 月 29 日各木・金曜 2、3 限開講）。

- 3) 慶應義塾大学薬学部 非常勤講師：医薬品情報学「医療経済評価」を担当（2020年7月9日 web 開講）
- 4) 岐阜薬科大学大学院薬学研究科 非常勤講師：グローバルレギュラトリーサイエンス「医療経済評価」を担当（2020年10月20日 web 開講）および博士課程学生の指導
- 5) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 非常勤講師：薬剤経済学「費用データ」を担当（2020年10月19日 web 開講）
- 6) 東京都立大学大学院健康福祉学研究科 非常勤講師：保健医療管理学「医療費と疾病管理」を担当（2020年12月4日 web 開講）

9 学内各種委員会活動

[学内各種委員会活動]

- 1) 神奈川県立保健福祉大学 教育研究審議会委員
- 2) 神奈川県立保健福祉大学 将来構想委員会地域貢献分科会委員
- 3) イノベーション政策研究センター センター長
- 4) ヘルスイノベーション研究科 副研究科長
- 5) ヘルスイノベーション研究科 運営委員会 委員
- 6) ヘルスイノベーション研究科 研究助成審査委員長

[イノベーション政策研究センター活動]

センター長としての職務の他、以下の事業の実施ならびに助言

- 1) 保健医療データ活用事業ならびに講演
- 2) 東京都心部における就労女性の働き方・生活習慣と健康との関連に係る調査研究
- 3) 神奈川県における地域包括ケアシステム及び地域医療計画・構想立案のための基礎資料作成に関する調査研究
- 4) 神奈川県における将来の高齢者像と社会参加促進策に関する調査研究
- 5) RWD 解析技術を活用した国保データ等の活用と解析手法の確立についての調査研究
- 6) 座間市保健医療データ活用プロジェクト

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

[科学研究費補助金，その他の補助金などの受託]

- 1) 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究（課題番号 20IA2009）」交付金：3,204千円（主任研究者）

[研究助成金の受託]

- 1) 奨学寄附金（東京理科大学から移管；前年度からの繰り越し）

[共同研究]

- 1) 名城大学薬学部病院薬学教室（半谷真七子人教授）「在宅医療での薬剤師の業務を評価する在宅薬学管理評価基準票の開発」共同研究
- 2) 東邦大学薬学部医療薬学教育センター薬事法学研究室（平賀秀明助教）「患者宅への医

薬品配送時の問題点と患者が許容できる配送時間に関する調査」共同研究

- 3) 日本コミュニティファーマシー協会（吉岡ゆうこ会長）「箱出し調剤導入に関する調査研究」共同研究
- 4) ウイルス等感染症対策に向けた機器・システム等の構築に資する基礎研究（秘密保持契約に基づき詳細情報を割愛、兼業届出）

島岡 未来子

1 著書

- 1) 佐藤真久・島岡未来子(2020)『協働ガバナンスと中間支援：環境保護活動を中心に』筑波書房.
- 2) 島岡未来子(2020)「第4章 企業が解決する社会的課題とマネジメント」、樽見弘紀・服部篤子編)『新・公共経営論:事例から学ぶ市民社会のカタチ』ミネルヴァ書房,64-85.
- 3) Shimaoka, Mikiko and Asahi, Torun and Inoue, Tatsuhiko and Kito, Tomomi and Ohno, Takahiro and Takata, Shozo. (2020) Entrepreneurship education at Waseda University, Japan: challenges in integrating entrepreneurship education programs across universities and beyond, Heidi M. Neck and Jeffrey A. eds. Innovation in Global Entrepreneurship Education: Teaching Entrepreneurship in Practice, Edward Elgar,51-67. (査読付き)
<https://www.e-elgar.com/shop/gbp/innovation-in-global-entrepreneurship-education-9781839104213.html>

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 環境省,アドバイザー委員,「地域循環共生圏プラットフォーム構築事業」は地域循環共生圏の構築に向け、自律分散型社会を目指している。本事業のアドバイザー委員として、全国アドバイザー委員会及び作業部会の参加、現地調査への参加、「環境整備」に対する助言・指導、事務局への相談対応を行う。
- 2) 国分寺市,国分寺市協働事業審査会委員,国分寺市が募集する協働事業の審査員として年4回の審査会に出席。
- 3) 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会、2040 かながわ福祉ビジョン策定委員、団体が、令和4年3月までにまとめる「2040 かながわ福祉ビジョン」の策定委員として年4回の会議に出席
- 4) 研究・イノベーション学会、編集委員会委員、本編集委員会は、研究・イノベーション学会の学会誌を管轄する委員会。年間4回程度開催される業務委員会に出席、審議。
- 5) 一般社団法人経営研究所 人事部門責任者フォーラム、コーディネータ、同研究所は昭和21年に学者と企業が共同で近代経営のあり方を研究すべく設立された会員制の非営利団体。フォーラムは月1回開催し、企業、大学、コンサルタントなどを、毎回ゲストスピーカーとして招へい。
- 6) 早稲田大学パブリックサービス研究所、研究員
- 7) 早稲田大学ソーシャル&ヒューマン・キャピタル研究所、研究員
- 8) 早稲田大学グローバル科学知融合研究所、研究員

5 社会貢献

- 1) 環境省,アドバイザー委員,「地域循環共生圏プラットフォーム構築事業」は地域循環共生圏の構築に向け、自律分散型社会を目指している。本事業のアドバイザー委

員として、全国アドバイザー委員会及び作業部会の参加、現地調査への参加、「環境整備」に対する助言・指導、事務局への相談対応を行う。

- 2) 国分寺市, 国分寺市協働事業審査会委員, 国分寺市が募集する協働事業の審査員として年4回の審査会に出席。
- 3) 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会、2040 かながわ福祉ビジョン策定委員、団体が、令和4年3月までにまとめる「2040 かながわ福祉ビジョン」の策定委員として年4回の会議に出席

6 講演, 放送

- 1) 公益社団法人大学コンソーシアム石川、「コーチング研修」、大学コンソーシアム石川のFD/SD 研修会講師として、75名の教職員を対象に、アクティブラーニング実施時に有用であるコーチングのスキルを実践的に学ぶ3時間の研修をオンラインで提供した。(11月12日)
- 2) 環境省近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)、近畿「地域循環共生圏」中間支援研究会準備会合 ～地域循環共生圏の創造における中間支援組織の役割や専門性の教材化に向けて～において、ローカルSDGs達成に向けて中間支援組織に求められる役割や機能についての講演を行った。(11月20日)

7 学会等での活動

- 1) 吉永契一郎、細川敏幸、鈴木久男、斉藤準、島岡未来子(2020年6月7日)「デザイン思考の手法と実践」『大学教育学会第42回大会オンライン大会概要集』*ゲスト
- 2) 池上清子、白井久美子、吉川成美、島岡未来子(2020年10月17日)「危機を乗り越えるP2M」『第30回国際P2M学会研究発表大会』パネルディスカッション(早稲田大学)
- 3) 島岡未来子(2020年11月1日)「研究・実践報告ルームD【ローカルと社会事業】」『第2回日本ソーシャル・イノベーション学年次大会』討論者(オンライン開催)
- 4) Shimaoka, Mikiko and Kobayashi, Naoto and Graffner, Malin Nordberg, and Löwegren, Marie(Oct 7, 2020), Innovation & Entrepreneurship MIRAI 1.0 Success Story, MIRAI 2.0 Japanese-Swedish Joint Kick-off / Scientific Webinar (Nagoya University)
- 5) 大学教育学会誌 査読者
- 6) 鈴木寛、島岡未来子、白坂成功、本江正茂、相田亮、モデレーター: 鶴田宏樹(2021年2月27日)「価値創造のための教育とは何か、教育システムはどうあるべきか」『イノベーション教育学会 第8回年次大会』パネルディスカッション(神戸大学)
- 7) 島岡未来子、高輪めぐみ、上島早織(2021年2月27日)「オンラインによる起業家教育の実践報告」『イノベーション教育学会 第8回年次大会』ポスター発表(神戸大学)

8 学内教育活動

- 1) 授業 Entrepreneurship I の実施
- 2) 授業 Entrepreneurship II の実施
- 3) 修士論文指導(主査2名、副査1名)
- 4) 実践教育センター、「デザイン思考ワークショップ」講師、看護師、介護職、管理栄養士、ケアマネージャー等約20名を対象に、医療現場の困りごとを解決するビジネスアイデアを創出するデザイン思考ワークショップを講師として開催(2月20日)
- 5) 実践教育センター、認定看護管理者教育課程講師、科目名: 質管理論Ⅲ、単元: 経営

と質管理、内容：ガバナンスとアカウンタビリティ、ねらい：ガバナンスとアカウンタビリティについて学び、自施設の現状を踏まえた課題を抽出できる。2021年10月29日(金)(2020年度予定がコロナの影響で中止。2021年はオンラインで実施予定)

- 6) 神奈川県立保健福祉大学、対人援助特論(博士課程後期必修)担当講師、(2021年度→)

9 学内各種委員会活動

- 1) SHI 入試委員会 委員(委員長)(通年)
- 2) SHI 企画委員会 委員(通年)
- 3) SHI 運営委員会 委員(通年)
- 4) SHI 研究助成金 審査委員(通年)
- 5) SHI 教員採用審査員(通年)
- 6) SHI 昇任人事審査員(通年)
- 7) SHI 奨学金選抜委員(2021年度入学)(任期)
- 8) SHI 人事小委員会委員(通年)
- 9) 神奈川県立保健福祉大学 自己評価専門部会 委員(通年)
- 10) SHI 教職員ワークショップ(ブレインストーミング)の企画・実施・まとめ(9月12日開催)(通年)

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 島岡未来子(研究代表者)、アントレプレナーシップ教育におけるチームのアウトプットに影響を与える要素分析、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤C)、2020年度-2022年度。
- 2) 島岡未来子(研究チームリーダー)、市民がデザインし、つながりが生み出す健康データイノベーション、RISTEX 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的实践→不採択
- 3) 島岡未来子(研究分担者)、オンライン教育を契機とした能動的学習・学習評価・学習課程・教育改善の開発・実践、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))→不採択
- 4) 文部科学省第三次補正予算補助事業「SCORE 大学推進型拠点都市環境整備型」への共同機関申請(主幹機関:早稲田大学)→採択

14 その他

- 1) SHI ホームページ、対談:飯野将人(ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ)×鄭雄一・島岡未来子(SHI)、コロナ禍で再認識した、医療・ヘルスケア領域におけるアントレプレナー教育の重要性
- 2) 米国バブソン大学が提供するオンライン FD プログラム Price-Babson Symposium for Entrepreneurship Educators: January 2021 への参加。文科省派遣、2021年1月11日-1月21日。

徳野 慎一

1 著書

- 1) 救急用語事典 = Emergency medicine terminology & dictionary (担当:共著) ぱーそん書房 2020年10月 (ISBN: 9784907095642)
- 2) 事件現場における事態対処医療標準ガイドブック 日本臨床救急医学会法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会研修コース等検討小委員会, 日本臨床救急医学会(担当:共著) へるす出版 2020年3月 (ISBN: 9784892699986)

2 学術論文

- 1) Tokuno S, Omiya Y, Takano T, Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Chung UT/Tei U. Social Impact Analysis by Smart Phone Voice. ESMSJ (Econophysics, Sociophysics & other Multidisciplinary Sciences Journal) 9 (1) 2020; 23-28 (原著論文, 査読なし)
- 2) Omiya Y, Tokuno S, How much of an impact did COVID-19 self-isolation measures have on mental health?, Asian Journal of Psychiatry, 54, 102445. (2020) (Letter, 査読あり)
- 3) Higuchi M, Yamamoto I, Omiya Y, Nakamura M, Shinohara S, Takano T, Nakagawa K, Ohira H, Yamada Y, Tokuno S. Effects of long- and short-term experiences on stress during identification works of dead bodies: Rapid stress level measurement using voice. Am J Disaster Med. 2020 Fall;15(4):251-259. doi: 10.5055/ajdm.2020.0374. PMID: 33428196. (原著論文, 査読あり)
- 4) Liu Q, Fang X, Tokuno S, Chung U, Chen X, Dai X, Liu X, Xu F, Wang B, Peng P, A web visualization tool using T cell subsets as the predictor to evaluate COVID-19 patient's severity, PLoS ONE, 2020, 15(9 September), e0239695 (2020.10) (原著論文, 査読あり)
- 5) Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Saito T, Tanichi M, Boku S, Mitsuyoshi S, So M, Yoshino, A., Tokuno, S, Evaluation of the severity of major depression using a voice index for emotional arousal, Sensors (Switzerland), 2020, 20(18), pp. 1-14, 5041 (2020. 9) (原著論文, 査読あり)
- 6) Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S, Effectiveness of a Voice-Based Mental Health Evaluation System for Mobile Devices: Prospective Study. JMIR Form Res; 4(7), e16455 (2020. 7) (原著論文, 査読あり)
- 7) Miyashita H, Nakamura M, Svensson A K, Nakamura M, Tokuno S, Chung U I, Svensson T, Association Between Electroencephalogram-Derived Sleep Measures and the Change of Emotional Status Analyzed Using Voice Patterns: Observational Pilot Study. JMIR Form Res, 4(6), e16880. (2020.6) (原著論文, 査読あり)

3 その他の著作

- 1) Tokuno S, Technology focus: Social impact analysis using voice biomarkers, Open Access Government, 2020(10), pp184-185

- 2) Tokuno S, Life events and voice biomarkers: Voice analysis technology, Open Access Government, 2020(7), pp266-267
- 3) Tokuno S, Ageing: Detection of cognitive impairment using voice analysis technology, Open Access Government, 2020(4), pp256-257
- 4) Tokuno S, A mind monitoring system: Voice analysis technology, Open Access Government, 2020(1), pp196-197

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 日本災害医学会 評議員

5 社会貢献

- 1) 日本 MIMMS 委員会 理事

6 講演, 放送

- 1) 新型コロナウイルス感染症 ~最近の話題~, 徳野 慎一, ヒューマンサービス公開講座 (特別企画), 2020.10.28

7 学会等での活動

- 1) Tokuno S, Omiya Y, Takano T, Higuchi M, Nakamura M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Tei U/Chung U, Social Impact Analysis by Smart Phone Voice, International Workshop EDEN (Exploratory Domains of Econophysics News) - XI (Virtual), 2020.10.10
- 2) 徳野慎一, ストレス状態を可視化するスマートフォンアプリケーション「MIMOSYS」, 第 20 回日本抗加齢医学会総会 (バーチャル) 2020.09.25-27
- 3) 大宮康宏, 高野毅, 樋口政和, 篠原修二, 中村光晃, 光吉俊二, 徳野慎一, MIMOSYS ver.2 の検討, 第 59 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2020.5.25-27.
- 4) 高野毅, 篠原修二, 光吉俊二, 大宮康宏, 樋口政和, 中村光晃, 齊藤拓, 吉野相英, 戸田裕之, 徳野慎一, ベイズ推定を用いた MIMOSYS の精度改善の検討, 第 59 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2020.5.25-27.
- 5) 樋口政和, 中村光晃, 篠原修二, 大宮康宏, 高野毅, 光吉俊二, 徳野慎一, 高圧環境下での音声によるストレス評価手法の検討, 第 59 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2020.5.25-27.
- 6) Omiya y, Takano T, Uruguchi T, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Ishida M, Kumamoto Y, Tokuno S, A pilot study to distinguish between healthy participant and patient with Alzheimer's disease and Parkinson's disease based on vocal analysis, Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020) (Virtual), 2020.4.2-5
- 7) Takano T, Omiya Y, Nakamura M, Higuchi M, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Takemura J, Okazaki T, Tokuno S, CORRELATION BETWEEN DRIVING SKILLS, COGNITIVE FUNCTION, AND SPEECH SPEED IN ELDERLY DRIVERS, Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020) (Virtual), 2020.4.2-5
- 8) Higuchi M, Nakamura M, Takano T, Okazaki T, Takemura J, Omiya Y, Shinohara S, Mitsuyoshi S, Tokuno S, A STUDY AND EVALUATION USING VOICE TO GAUGE THE DRIVING

ABILITY OF THE ELDERLY, Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies (AAT-AD/PD2020) (Virtual), 2020.4.2-5

8 学内教育活動

- 1) 環境保健学
- 2) 産業保健学
- 3) 健康危機管理学
- 4) 産業衛生演習

9 学内各種委員会活動

- 1) 企画委員 (SHI)
- 2) 地域貢献委員 (SHI)
- 3) COI 審査委員 (SHI)

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 平成 27 年 4 月～平成 35 年 3 月 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果展開事業「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム・自分で守る健康社会拠点」研究分担者
- 2) 平成 30 年 4 月～令和 3 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「低線量・低線量率放射線被ばくが疾病モデル動物の全身免疫能に及ぼす影響」研究分担者
- 3) 平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「子ども虐待予防: 舌喉頭矯正術による児の育児困難症状改善と母親の疲労改善の評価」研究分担者
- 4) 令和 2 年 4 月～令和 4 年 3 月 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤 C) 「デュアルタスクと音声による認知障害の検出」研究分担者

14 その他

- 1) How Voice Analysis Technology Can Track the Psychological Impact of Covid, #CrisisTalk, 2021.2.16
- 2) Decade of healthy ageing: Baseline report, WHO, 2020.12.17
- 3) WHO clinical consortium on healthy ageing 2019: report of consortium meeting, WHO, 2020.10.1
- 4) 「声」をバイオマーカーに、うつ病や認知症の診断補助ツールになるか, Beyond Health (日経 BP), 2020.10.6
- 5) 話し声から認知症発見へ, 松本市民タイムス, 2020.9.24

中原 慎二

1 著書

- 1) 坂本 哲也/中原 慎二/市川 政雄【監修】/高山 祐輔【著】. 救急隊員のための研究実践ガイドブック—指導救命士必携. 東京: 晴れ書房; 2020.
- 2) 外傷初期診療ガイドライン JATEC 改訂第 6 版. 東京: へるす出版; 2021. (編集協力)

2 学術論文

- 1) 横田 茉莉、西田 昌道、石井 健、濱田 裕久、中原 慎二、坂本 哲也. 神経学的所見の明らかではないめまい症状で救急外来を受診した患者の MRI 所見の検討. 臨床救急医学会雑誌. in press 原著 査読付
- 2) Hoang, Bui Hai; DO, Ngoc Son; VU, Dinh Hung; Dao, Dung; DO, Giang Phuc; Nguyen, Huu Huan; Luu, Quang Thuy; Le, Van Cuong; Nguyen, Huu Tu; Nakahara, Shinji; Dinh, Michael. Outcomes for out-of-hospital cardiac arrest transported to emergency departments in Hanoi, Vietnam: a multi-center observational study. Emerg Med Australasia. in press 査読付 原著
- 3) Inada H, Tomio J, Ichikawa M, Nakahara S. Reduced road injuries while commuting due to heavy snowfall and ensuing modal shifts among junior high school students in Japan. J Epidemiol. in press 査読付 原著
- 4) Kaweenuttayanon N, Pattanarattanamolee R, Sorncha N, Nakahara S. Community surveillance by village health volunteers during the COVID-19 outbreak in Thailand. Bull World Health Organ. In press 査読付 Lessons from the field
- 5) Pattanarattanamolee R, Yomsteeken-Sanglun R, Nakahara S. Community-based first responder network in rural Thailand: a case study of out-of-hospital cardiac arrest. Prehospital and Disaster Medicine. in press (査読付) 症例報告
- 6) Nakahara S, Nagao T, Nishi R, Sakamoto T. Task-shift model in pre-hospital care and standardized nationwide data collection in Japan: Improved outcomes for out-of-hospital cardiac arrest patients. JMA Journal. In press (査読付) 総説
- 7) Onuki T, Nakahara S, Fujita T, Miyake Y, Sakamoto T. End-of-life care provided in emergency medical system in Japan. The American Journal of Emergency Medicine. 2020. in press (査読付) リサーチレター
- 8) Ito K, Sou Y, Koizumi G, Kanda J, Miyake Y, Sakamoto T, Nakahara S. Infection Control Strategy Using a Hybrid Resuscitation Room System During the COVID-19 Pandemic in Tokyo, Japan. Annals of Emergency Medicine. 2020;76:816-7. 査読なし レター
- 9) Nishi R, Nakahara S, Miyake Y, Sakamoto T. Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in a hybrid resuscitation room. Am J Emerg Med. 2020;38:2748-9.

(査読付) リサーチレター

- 10) Nomura T, Sekii H, Sugita M, Nakahara S. Association between biphasic reactions and the systems of symptoms and treatment in patients with anaphylaxis hospitalized from the emergency department. *Acute Medicine & Surgery*. 2020;7:e599. (査読付) 原著
- 11) Working group on heatstroke medical care during the COVID-19 epidemic (中原慎二はメンバーの一人). Heatstroke management during the COVID-19 epidemic: Recommendations from the experts in Japan. *Acute Med Surg*. 2020. (査読付) 総説 (システマティックレビュー)
- 12) Druwe P, Monsieurs KG, Gagg J, Nakahara S, Cocchi MN, Elo G, et al. Impact of perceived inappropriate cardiopulmonary resuscitation on emergency clinicians' intention to leave the job: Results from a cross-sectional survey in 288 centres across 24 countries. *Resuscitation*. 2020;158:41-8. (査読付) 原著
- 13) Nakahara S, Kanda J, Miyake Y, Sakamoto T. High incidence of heat illness and the potential burden on the health care system during the COVID-19 pandemic. *The Lancet Regional Health - Western Pacific*. 2021;6:100070. (査読付) Commentary
- 14) 小林 理, 中原 慎二, 新保 幸男. 社会的養護における専門職の人材育成に関する実態と課題 職場研修のニーズを中心に. 厚生指針. 2020;67:33-9. (査読付) 原著

3 その他の著作

- 1) 新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた熱中症診療に関するワーキンググループ(中原慎二はメンバーの一人). 新型コロナウイルス感染症流行下における熱中症対応の手引き. 2020.
- 2) Japan Trauma Data Bank Report 2020 (2014-2019) 外傷学会トラウマレジストリ検討委員会の委員としてデータ分析、作成に関与した

4 学会、協会、公的団体の委員など

- 1) JRC 蘇生ガイドライン 2020 作成委員会 日本救急医学会委員
- 2) 社会保障審議会統計分科会専門委員
- 3) 日本外傷学会トラウマレジストリ検討委員会委員

8 学内教育活動

- 1) 調査法演習
- 2) インジュリーコントロール講義
- 3) ヘルスコミュニケーションに関するワークショップ企画
- 4) ハノイ医科大学との、Hospital malnutrition に関するカンファレンス企画 (2021年3月3日)

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科倫理委員会
- 2) ヘルスイノベーション研究科入試委員会
- 3) ヘルスイノベーション研究科地域貢献委員会
- 4) ヘルスイノベーション研究科研究助成委員会（学内助成金審査）
- 5) 全学研究委員会（研究報告会実施、大学誌編集、サバティカル制度原案作成）

10 科学研究費補助金、その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費補助金「開発途上国の救急医療システム構築モデルの提案—地域保健医療枠組みの活用（19K09403）」：研究代表者
- 2) 厚生労働科学研究費補助金「市民による AED 等の一次救命処置のさらなる普及と検証体制構築の促進および二次救命処置の適切な普及に向けた研究(20FA1014)」：研究分担者
- 3) 科学研究費補助金「超高齢社会におけるモビリティ確保と健康・安全・社会的包摂に関する学際研究（18K10081）」：研究分担者
- 4) 科学研究費補助金「ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析（18H01553）」：研究分担者
- 5) 科学研究費補助金「看護職主導による 2 型糖尿病未治療改善・治療中断予防プログラムの開発（19K10951）」：研究分担者

14 その他

- 1) 留学生に対する奨学金の広報：ハノイ医科大学、ベトナム国立栄養研、ベトナム国立小児病院、タイ保健省、タイ・コンケン大学、タイ・コンケン病院、タイ・シリントン病院、ラオス国立保健医療大学、ラオス保健省、ラオス国立栄養研、カンボジア国立保健医療大学、KHANA（カンボジア NGO）、シンガポール国立大学、コロンボ大学、コロンボ国立病院、全インド医科大学など

成松 宏人

2 学術論文

- 1) Narimatsu H, Sakaguchi M, Nakamura S, Katayama K. Future Patient Incidence in Hemato-Oncology: A Study Using Data from Cancer Registries in Japan. Risk management and healthcare policy. 2020;13:2407-14. Epub 2020/11/12.
- 2) Sugawara Y, Murakami M, Narimatsu H. Use of Social Media by Hospitals and Clinics in Japan: Descriptive Study. JMIR Med Inform. 2020;8(11):e18666. Epub 2020/11/28.
- 3) Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, Narimatsu H, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K. Study profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. J Epidemiol. 2020. Epub 2020/09/24.
- 4) Watanabe K, Katayama K, Yoshioka T, Narimatsu H. Impact of individual background on the unmet needs of cancer survivors and caregivers - a mixed-methods analysis. BMC Cancer. 2020;20(1):263. Epub 2020/04/02.
- 5) Yasui M, Sakaguchi M, Jikuya R, Tsutsumi S, Tatenuma T, Noguchi G, Umemoto S, Katayama K, Narimatsu H, Uemura H, Kishida T. Comparative effectiveness of surgery and radiotherapy for survival of patients with clinically localized prostate cancer: A population-based coarsened exact matching retrospective cohort study. Oncol Lett. 2020;20(5):150. Epub 2020/09/17.
- 6) Okamura Y, Sugiura T, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Ohgi K, Sasaki K, Narimatsu H, Uesaka K. The prognostic roles of the prognostic nutritional index in patients with intraductal papillary mucinous neoplasm. Sci Rep. 2021;11(1):568. Epub 2021/01/14.
- 7) Sato A, Haneda E, Suganuma N, Narimatsu H. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot Augmented Intelligence Genetic Counselor: Development and Feasibility Study. JMIR Form Res. 2021;5(2):e25184. Epub 2021/02/06.

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 神奈川県生活習慣病対策委員会：委員
- 2) 神奈川県生活習慣病対策委員会委員会 がん・循環器病対策部会：委員
- 3) 神奈川 ME-BYO リビングラボ 専門委員
- 4) Member, WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing
- 5) クロスアポイントとして

- ・神奈川県立がんセンター 臨床研究所 がん予防・情報学部 部長
- ・神奈川県立がんセンター 遺伝診療科 部長

5 社会貢献

- 1) 山形大学医学部・非常勤講師（個別化医療）
- 2) 帝京大学公衆衛生大学院・非常勤講師（医療管理学）
- 3) 横浜市立大学・非常勤講師（がんの疫学）
- 4) 非営利活動法人 地域健康プラン理事長

6 講演，放送

成松宏人 「シリーズ 統計学講義」 於 日本海総合病院 山形県酒田市
2020年8月31日、9月16日、10月14日、11月16日、12月16日

BS-1 スペシャル 私たちのデジタル医療革命 2021 取材対応 NHK-BS-1 2021年
1月2日放送

成松宏人 「疫学研究のつくりかた」 超入門・公衆衛生学講座 2020 年未病産業
研究会有料講座 web 配信

7 学会等での活動

- 1) 羽田恵梨，佐藤杏，谷島和美，緒方文子，山内桂子，瀬畑善子，山中隆司，清水哲，
成松宏人：がん医療の多職種連携における認定遺伝カウンセラー®の役割．第 26 回日
本遺伝性腫瘍学会学術集会，[オンライン開催]，8/2020
- 2) 佐藤杏，羽田恵梨，瀬畑善子，菅沼伸康，山下年成，成松宏人：当院における遺伝性
乳がん卵巣がん症候群の懇話会の取り組み．第 28 回日本乳癌学会学術総会，[オンラ
イン開催]，10/2020
- 3) 長澤誠，中村翔，小熊祐子，齋藤義信，粕川隆士，成松宏人：HAL 腰タイプを使用し
た運動プログラムがフレイル状態にある高齢者の運動 self efficacy への与える影響
について 日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会 2020 [オンライン開
催]
- 4) 中村翔，齋藤義信，成松宏人：Quality of life 関連指標と ME-BYO index との関連
第 31 回 日本疫学会学術総会 令和 3 年 1 月 27 - 29 日（佐賀[オンライン開催]）
- 5) 齋藤義信，小熊祐子，今村晴彦，田島敬之，中村翔，成松宏人 フレイルと住民主体
のグループ運動との関連：横断研究 第 31 回 日本疫学会学術総会 令和 3 年 1 月
27 - 29 日（佐賀[オンライン開催]）
- 6) 市原青葉，小熊祐子，齋藤義信，成松宏人，中村翔，粕川隆士．ヘルスケアロボット
HAL の運動プログラムが身体活動・身体機能に与える影響について．第 79 回日本
公衆衛生学会総会．一般演題．令和 2 年 10 月 20 日（京都 [オンライン開催]）
- 7) 田中琴音，中村翔，中島啓，成松宏人．低血糖と抑うつ状態の関連第．31 回日本疫学
会学術総会．オンデマンド口演．令和 3 年 1 月 27 - 29 日（佐賀[オンライン開催]）

8 学内教育活動

- 1) 疫学研究
- 2) 疫学演習
- 3) 臨床研究
- 4) ヘルスイノベーション演習基礎
- 5) ヘルスイノベーション演習

9 学内各種委員会活動

- 1) 入試委員会 委員
- 2) 倫理委員会 委員
- 3) イノベーション政策研究センター研究員

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費助成事業 (科研費) 基盤研究 (C)
データ包絡分析法を活用した個別化予防医療の開発
(2017-2020 年度)
代表: 成松宏人
- 2) 科学研究費助成事業 (科研費) 新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」
「コホート・生体試料支援プラットフォーム」
(2016-2021 年度)
分担: 成松宏人
- 3) 厚生労働省科学研究費補助金 (がん対策推進総合事業)
全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨
(2018-2020 年度)
代表: 成松宏人
- 4) 科学研究費助成事業 (科研費) 基盤研究 (C)
Peer Education による子宮頸がん及び HPV 関連がん予防教育プログラムの開発
(2016-2020 年度)
代表: 片山佳代子 分担: 成松宏人
- 5) 科学研究費助成事業 (科研費) 基盤研究 (B)
進行膵癌に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討 (赤沢 学)
(2019-2024 年度)
代表: 赤沢 学 分担: 成松宏人
- 6) 中外製薬 がん予防・疫学および骨・関節領域における研究活動
- 7) タケダリサーチサポート 高血圧、糖尿病、脂質異常症の新規予防法および治療法開発を目的としたゲノムホート研究: 神奈川県みらい未病コホート研究
- 8) かながわ県立病院がん基金研究助成 AI を活用した家族性腫瘍拾い上げシステムの開発研究
- 9) ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 文部科学省 地域イノベーション・エコシ

- ステム形成プログラム 神奈川発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト 地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 代表研究者：成松宏人
- 10) ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出、令和 2 年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業 地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 代表研究者：成松宏人
- 11) 未病指標の精緻化等に関する実証事業 神奈川県 リーダー 成松宏人

11 学内研究助成金の受託

- 1) 「グローバルヘルスに還元するがん対策：Kanagawa Shanghai 比較共同研究」ヘルスイノベーション推進研究費 代表
- 2) ヘルスイノベーション推進研究費、「デジタルピアサポート「みんなチャレ」の活用による行動変容や行動継続へのインパクトに関する研究」.(分担研究者)

14 その他

<主な研究活動>

- 1) 神奈川県みらい未病コホート研究（神奈川県立がんセンター、日本多施設共同コホート研究（J-MICC 研究）、東北メディカルメガバンク機構との共同研究）
- 2) ME-BYO and ME-RISE プロジェクト（神奈川県みらい未病コホート研究の研究基盤を活用した探索的介入研究）
- (ア) データ包絡法分析を活用した予防医療プログラムの実証研究（山形県高島町、NPO 法人地域健康プラン、企業、神奈川県立がんセンター臨床研究所との共同研究）
- (イ) ヘルスケアロボット HAL を活用した介護予防の実証研究（慶應大学、企業との共同研究）
- (ウ) デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」の行動変更へのインパクト評価に関する研究（企業との共同研究）
- (エ) 肥満の遺伝学的リスクスコアと食事・運動介入プログラムの効果に関する研究（企業との共同研究）
- (オ) 未病指標の精緻化等に関する実証事業等業務（神奈川県委託事業）
- (カ) 新型コロナウイルス抗体保有者の生活習慣や腸内環境を解析する研究（KISTEC および企業との共同研究）
- (キ) 新型コロナウイルス抗体保有者の生活習慣や栄養状態に関する研究（神奈川県立保健福祉大学栄養学科との共同研究）
- 3) 神奈川県がん登録管理責任者（地域がん登録および全国がん登録）（神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防情報学部 部長として）
- 4) がん登録データの活用研究
- (ア) がん検診精度管理事業（横浜市および横浜市医師会との共同事業）（神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防情報学部 部長として）
- (イ) グローバルヘルスに還元するがん対策：Kanagawa Shanghai 比較共同研究
- 5) 遺伝診療における AI チャットボットの開発と活用（神奈川県立がんセンター臨床研

研究所および同センター遺伝診療科および企業との共同研究)

八代 嘉美

1 著書

- 1) 科学史事典、担当項目「再生医療」（丸善出版、in press）

2 学術論文

- 1) ヒトオルガノイド研究と社会との協働について、医学のあゆみ, in press（招待論文、査読無）
- 2) COVID-19 の薬事開発と社会との関係について、日本サイエンスコミュニケーション協会誌, 10(2), 2020年10月（招待論文、査読有）
- 3) 再生医療の基礎知識, 公衆衛生, 84(10) 681-686 2020年10月（招待論文、査読無）
- 4) 日本再生医療学会による社会とのコミュニケーションの試み, 科学技術社会論研究, 137-140, 2020年4月（査読付）

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 文部科学省 特定胚等研究専門委員会 委員
- 2) 日本再生医療学会 理事、代議員
- 3) 日本ゲノム編集学会 教育・実習委員
- 4) 日本ゲノム編集学会 倫理・規制委員
- 5) 慶應義塾大学 特定認定再生医療等委員会 委員
- 6) 蒲郡市民病院 特定認定再生医療等委員会 委員
- 7) 東京都健康長寿医療センター 特定臨床研究委員会 委員

5 社会貢献

- 1) 大阪大学社会技術共創研究センター キックオフイベント 講演、パネリスト（2020年7月3日）
- 2) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」東京会場 企画・講演（2019年8月31日）
- 3) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」企画・講演（2020年9月5日）
- 4) 日本科学未来館イベント『Cinema 未来館』パネリスト（2020年10月25日）
- 5) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」企画・講演（2021年1月26日）
- 6) 日本医療研究開発機構（AMED）令和2年度 AMED 再生医療研究交流会ム「動物を利用して臓器を作る」座長・オーガナイザー（2020年12月21日）

6 講演, 放送

- 1) BS フジ なるほどなっとく塾「もしも不老不死が実現したら」（2020年9月13日）
- 2) TBS ラジオ荻上チキ・Session-22「コロナ以後、社会をどう設計していくか？～今、

あるべき科学コミュニケーションとは？」(2020年8月6日)

7 学会等での活動

- 1) ヒトオルガノイド研究と社会との関係について、第20回日本再生医療学会総会、2021年3月13日、東京
- 2) 再生医療研究への患者・市民参画に向けた社学連携ユニットの取り組み、第20回日本再生医療学会総会、2021年3月13日、東京
- 3) 社会に対する日本再生医療学会の取り組み、第20回日本再生医療学会総会、2021年3月(オンデマンド)

8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科「先端医療における責任ある研究・イノベーション(RRI I/II)」(1年後期前半、後半)
- 2) 再生医療特論(1年後期前半)
- 3) ヘルステクノロジー I/II(1年後期後半、2年前期後半)

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究倫理委員会 委員長

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) セコム科学技術振興財団「効率的な再生医療の提供に向けた政策課題解決のための研究」(研究代表者)
- 2) 日本学術振興会「RRIの新展開のための理論的・実践的研究－教育・評価・政治性に注目して」(研究分担者)
- 3) 日本学術振興会「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践」(研究分担者)
- 4) 厚生労働省委託事業「認定再生医療等委員会における審査の質向上にむけた研究」(研究分担者)
- 5) AMED 再生医療実現拠点ネットワークプログラム「再生医療研究とその成果の応用に関する倫理的課題の解決支援」(研究分担者)

12 受賞

- 1) 日本科学技術社会論学会 柿内賢信記念賞

14 その他

新聞掲載

- 1) iPS、世界と隔たり 集中投資も存在感乏しく (日本経済新聞 2021年1月10日)
- 2) 広がる臨床研究・治験 iPS実用化 コストの壁 細胞製造「複雑な工程」(読売新聞 2020年10月28日)
- 3) [サイエンスReport] 新政権の課題(中) iPSに予算集中の功罪(読売新聞)

2020年10月4日)

- 4) 再生医療審査 依頼先偏り 病院側 通やすさで選別か (読売新聞 2020年5月31日)
- 5) 政治と科学 問われる分担 (京都新聞 2020年5月28日)

YOO BYUNG KWANG

1 著書

- 1) 兪炳匡 (2020). 「台風とコロナ・パンデミックは同じか？」内田樹(編)『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』, 晶文社, 145-156. (ISBN-13 : 978-4794970428)
- 2) 兪炳匡 (2021). 「日本再生のための「プラン B」 医療経済学による所得倍増計画」(集英社新書), 集英社, 304 頁. (ISBN-13 : 978-4087211610)
- 3) 兪炳匡 (2021). 「「改革」のための医療経済学」, 北東亜州出版, 276 頁. (ISBN-13 : 978-4991195006)
- 4) 兪炳匡 (2021). 「「プラン B」をもっと知るための 10 通の手紙—個人と社会の多様性を豊かにするために」, 北東亜州出版, 128 頁. (ISBN-13 : 978-4991195013)

3 その他の著作

- 1) 兪炳匡 (2020). 「日本に於ける新型コロナウイルス・パンデミックの抗体検査結果の比較と分析」, レポート提出先: 児玉龍彦教授 (東京大学 先端科学技術研究センター 名誉教授) 新型コロナウイルス抗体検査機利用者協議会 (2020 年 7 月 16 日) 参議院 予算委員会 資料 補足資料. <https://www.ric.u-tokyo.ac.jp/topics/2020/ig-20200727.pdf> (English version), https://www.ric.u-tokyo.ac.jp/topics/2020/ig-20200716_all.pdf (Original Japanese version). (閲覧日: 2020 年 7 月 31 日)
- 2) 兪炳匡, 高木俊, 野口晴子 (2020). 「新型コロナウイルスの無症状者に対する PCR 検査の費用対便益分析」, 早稲田大学現代政治経済研究所 WINPEC Working Paper Series No. J2002 October 2020. https://www.waseda.jp/fpse/winpec/assets/uploads/2020/10/J2002-1_version_p6_corrected.pdf (閲覧日: 2020 年 10 月 18 日)
- 3) 兪炳匡 (2020). 「新型コロナの院内・施設内感染予防対策としての医療機関・介護施設等のスタッフ対象の定期的 PCR 検査ガイド—経営改善策としての「PCR 検査への投資」について医療経済学からの提言」, 2020 年 12 月 22 日 改訂第 5.1 版 <https://www.ric.u-tokyo.ac.jp/topics/2020/ig-20201222-yoo.pdf> (閲覧日: 2020 年 12 月 22 日)

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県庁: 新型コロナウイルス・パンデミック関連政策のアドバイザー (令和 2 年 4 月～現在)
- 2) 東京都世田谷区役所: 新型コロナウイルス・パンデミック関連政策のアドバイザー. 特に, 医療従事者や無症状もしくは軽症者などを対象とした社会的 PCR 検査の実施に関する政策立案のための助言・指導. (令和 2 年 8 月～現在)
- 3) 在日本 (東京) 米国大使館: 新型コロナウイルス・パンデミックに関連する独自のデータ分析と対策案を定期的に提出 (令和 2 年 9 月～現在)

6 講演，放送

- 1) 東京大学大学院医学系研究科、公共健康医学専攻、科目名：健康医療政策学のゲストスピーカーとして「大規模感染症対策の経済学的評価」について講義した（2020年10月19日）。

8 学内教育活動

- 1) 「ヘルステクノロジーⅡ」：大規模感染症の対策の経済的分析について，4回の講義を担当

9 学内各種委員会活動

- 1) 国際協働推進部門会議（通年）

14 その他

- 1) 週刊文春（2020年7月30日号）新型コロナウイルス特集記事に関する取材対応
- 2) 週間女性自身（2020年8月11日号）新型コロナウイルス特集記事に関する取材対応

吉田 穂波

1 著書

- 1) 吉田穂波、滝本秀美. 母子保健 : In 「社会・環境と健康 2022-2023」 In press
南江堂 東京 2021
- 2) 吉田穂波. あかちゃんとママを守る防災ノート、受援力のススメ. 日本家族計画協会.
東京 2020 https://www.jfpa.or.jp/material/bousainote_1014.pdf

2 学術論文

【原著論文（査読あり）】

- 1) Kato, N., Sauvaget, C., Yoshida, H. et al. Factors associated with birthweight decline in Japan (1980–2004). BMC Pregnancy Childbirth:21:337 (2021).
<https://doi.org/10.1186/s12884-021-03819-0>

【総説論文（査読あり）】

- 1) 吉田穂波. 風疹・麻疹・水痘・ムンプスの抗体検査とワクチン接種. 微研ジャーナル. 43 (3) :3-16. 2020
- 2) 吉田穂波. 新型コロナウイルス感染症の影響による乳幼児健診率及びワクチン接種の現状. 微研ジャーナル. 44 (1) :3-16. 2021
- 3) 吉田穂波. 産後の女性の心と身体. チャイルドヘルス. 24(3): 175-178. 2021
- 4) 吉田穂波. 新型コロナウイルス感染症の重症化リスクの高い人々への対策(母子保健). 神奈川県公衆衛生学会誌. 66:42-47. 2021
- 5) 吉田穂波. ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症と HPV 検査及び HPV ワクチン接種の現状. 微研ジャーナル. 44 (2) :3-12. 2021

3 その他の著作

【総説論文（査読なし）】

- 1) 吉田穂波, 小野眞史, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第1回】
対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用
外来で活用できるコーチングスキル. 継続看護時代を担う体質強化 外来看護.
25(2):96 – 102. 2020
- 2) 吉田穂波, 吉田敦. 新型コロナウイルス感染症と向き合うために : 公衆衛生医師の視点と親の視点から. 福祉のひろば. 242:46 - 51 2020
- 3) 人に頼ることで、自分も相手も幸せになれる! 月刊清流. No.315 2020年7月号
- 4) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第2回】
対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用
外来で活用できるコーチングスキル. 継続看護時代を担う体質強化 外来看護.
25(3) :126 – 133. 2021
- 5) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第3回】
対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用
外来看護でのコミュニケーション② 対患者コーチング:適応と開始時の注意
継続看護時代の外来看護. 25(4) :131 – 137. 2021

- 6) 吉田穂波. あかちゃんとママを守る防災ノート. 防災フロントライン. 月刊 NOW IS.Vol.55 宮城県震災復興本部 2020
- 7) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. 对患者コーチング:安全に使えるスキルと注意すべきスキル. 【連載第4回】对患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用 外来看護でのコミュニケーション③ 对患者コーチング:安全に使えるスキルと注意すべきスキル 継続看護時代を担う体質強化外来看護. 26(1) :126-133. 2021
- 8) 吉田穂波. 受援力のススメ. 家族と健康. 803:3. 2021
- 9) 吉田穂波. 医師の仕事に広がり可能性を. 総合診療. 31(5): 661-667. 2021

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県公衆衛生協会 企画・学術部会委員
- 2) 日本公衆衛生学会 広報eラーニング委員会委員
- 3) 日本周産期メンタルヘルス学会 評議員
- 4) 神奈川県平塚保健福祉事務所 母子保健委員会アドバイザー
- 5) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室アドバイザー
- 6) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室神奈川 ME-BYO リビングラボ専門委員
- 7) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務局参与
- 8) 厚生労働省医政局医道審議会専門委員
- 9) 日本家族計画協会 研究倫理審査委員・倫理委員

5 社会貢献

- 1) 新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部搬送調整担当者
- 2) 神奈川県リビングラボ事業審査委員
- 3) 神奈川県未病アンバサダー事業アドバイザー
神奈川県健康推進協会 未病副読本医療監修
- 4) 神奈川県公衆衛生協会 企画・学術部会委員
- 5) 神奈川県と花王の協定による神奈川県女性における未病改善の調査ならびに啓発事業
- 6) 神奈川県と花王の協定による神奈川県女性における新型コロナウイルスの健康影響に関する調査事業
- 7) 神奈川県平塚保健福祉事務所 妊娠期から産後までの切れ目ない支援ならびに児童虐待防止事業アドバイザー
- 8) 神奈川県看護協会 助産師職能委員会災害研修事業講師
- 9) 神奈川県鎌倉保健福祉事務所 令和2年度 DHEAT 研修事業企画委員
- 10) 日本公衆衛生学会 広報/eラーニング委員会委員
- 11) 厚生労働省医政局医道審議会 専門委員
- 12) 厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局 参与

6 講演, 放送

- 1) 「コロナ禍での災害時母子避難のあり方は？」朝日新聞. 20/06/23
- 2) 「子育て家族のメンタルケア」講師 すくすく子育て. NHK 教育. 2020/6/27
- 3) 「産休前の仕事引き継ぎ コロナ禍で意識すべきこと」 日経 DUAL 2020/6/30
- 4) 「被災地の声に学ぶ。災害時の母子支援と防災」講師 東日本大震災 音声アーカイブス ～あれから、そして未来へ～. NHK ラジオ第一放送 2019/07/13
- 5) 「宮城県災害医療従事者研修会」講師 災害医療 ACT 研究所 2020/7/19
- 6) 「女性の健康と未病」講師 ME-BYO スタイルスキルアップ勉強会 神奈川県庁 2020/7/30
- 7) 「医療と健康」講師 お茶の水女子大学生生活科学部食物栄養学科 2020/9/3
- 8) 「公衆衛生に係る人材の確保・育成に関する調査および実践活動報告」全国保健所長会「地域保健総合推進事業」主催者 2020/6/13
- 9) 全国保健所長会「地域保健総合推進事業 公衆衛生医師サマーセミナー2020 オンライン」ファシリテーター 2020/8/22
- 10) 「NHK パパママフェスティバル」パネル NHK 名古屋放送局. 2020/10/31-11/1
- 11) 第79回日本公衆衛生学会総会 自由集会「オンライン公衆衛生医師の集い」ファシリテーター 2020/10/20
- 12) 国立保健医療科学院 地域保健臨床研修専攻科「医師のキャリア」講師 2020/10/26
- 13) 「女性のからだ・健康と受援力」講師 男女共同参画センター横浜（フォーラム） 2020/ 11/12
- 14) 「東日本大震災から考える備え・防災ノート&ポーチ」講師 あかちゃんとママを守る防災ワークショップ 2020/ 11/13
- 15) 「公衆衛生学の観点から見る粘膜免疫と新型コロナウイルス感染症対策」講師 大塚製薬株式会社 2020/11/25
- 16) 神奈川県看護協会 助産師職能研修「災害時母子救護の現状」講師 2020/11/27
- 17) 長野県松本保健所「災害時の母子を守るための支援を考える」講師 2020/12/11
- 18) おやこ防災チャレンジデー（東京都中野区主催）「災害時に大切な人を守るために」講師 2020/12/13
- 19) 三重県母子保健コーディネーター養成研修「新型コロナウイルス感染症下における災害時の母子支援」講師 2020/12/21
- 20) 日本病院会 医療安全管理者養成講習会ファシリテーター 2020/12/25、2021/1/30-31
- 21) あかちゃんとママを守る防災ワークショップ「2021年に赤ちゃんを迎えるプレママ・パパさんへ 出産する前に知りたい子どもの安全」講師 2021/1/9
- 22) 徳島大学令和2年度防災特別研究プロジェクト「コロナと地震、複合災害から子どもと家族の命をまもるために」講師 2021/2/2（オンライン開催）
- 23) 香蘭女子大学「理想の人生をデザインするために」講師 2021/2/16（オンライン開催）

- 24) 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 健康危機管理「アドバンスセミナー」「女性・乳幼児に焦点を当てた避難所運営ゲーム実施を通じた災害対策」講師 2021/2/16
- 25) 読売新聞社「未病シンポジウム」女性の未病と健康支援講師 2021/2/17
- 26) 神奈川県助産師会「災害時の妊産婦・母子支援の実際」講師 2021/2/27
- 27) 渋谷クロス FM 防災カフェ・ゲストコメンテーター 2021/3/10
- 28) 日本家族計画協会「災害時母子支援オンライン HUG 研修」2021/3/13

7 学会等での活動

- 1) 吉田穂波、松本良二. 地域包括ケアと災害医療対策 1: 更なる広がりを目指して(3) 災害対応を通じた平時の母子保健体制強化とネットワーク構築. 第 79 回日本公衆衛生学会総会. シンポジウム A3-4 (オンライン) 2020 年 10 月
- 2) 吉田穂波. 災害対応を通じた平時の母子保健体制強化とネットワーク構築. 第 26 回日本集団災害学会総会. 小児周産期シンポジウム (オンライン) 2021 年 3 月
- 3) 吉田穂波. 避難所における組織横断的な母子支援体制の必要性. 第 26 回日本集団災害学会総会. 避難所運営シンポジウム (オンライン) 2021 年 3 月

8 学内教育活動

- 1) ヘルスコミュニケーションコース 担当教員
- 2) 健康危機管理学コース 担当教員
- 3) 未病のライフデザイン ゲストスピーカー
- 4) 健康行動科学 ゲストスピーカー
- 5) 修士論文指導教員
- 6) コンケン大学連携ワークショップ (フィールドワーク 1B) 担当教員

9 学内各種委員会活動

- 1) 国際協働部会委員 (全学)
- 2) 入試委員会委員 (ヘルスイノベーション研究科)
- 3) 教務委員会委員 (ヘルスイノベーション研究科)

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 厚生労働行政推進調査事業費補助金: 成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業
期間: 2018 年度 ~ 2020 年度
研究課題名: 乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究 (研究代表者: 横山徹爾) 研究分担者
- 2) 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援
期間: 2020 年度 ~ 2021 年度 (文部科学省)
研究課題名: 新型コロナウイルス対策に配慮した災害時の避難母子支援システム構築に向けた課題抽出 3,000 千円 研究代表者
- 3) 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

期間:2020 年度 ～2022 年度

研究課題名:大規模災害後の災害弱者の孤立化防止の為の避難フェーズ別効果的介入モデルの開発 (研究代表者:崎坂香屋子) 4,420 千円 研究分担者

4) 厚生労働行政推進調査事業費補助金:地域保健総合推進事業

期間:2020 年度 ～2022 年度

研究課題名:公衆衛生医師の確保と育成に関する調査及び実践事業(研究代表者:武智浩之) 研究協力者

5) 厚生労働行政推進調査事業費補助金:成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業

期間:2019 年度 ～2020 年度

研究課題名:「災害に対応した母子保健サービス向上のための研究」(研究代表者:小枝達也) 研究協力者

6) 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業

期間:2019 年度 ～2021 年度

研究課題名:「国土強靱化計画をふまえ、地域の実情に応じた災害医療提供体制に関する研究」(研究代表者:小井土雄一) 分担研究課題「周産期・小児医療提供体制に関する研究」 研究協力者

【産学連携共同研究】

- 1) 株式会社 Femmes Médicaux 様、三菱地所株式会社様による「丸ノ内働き女子」調査・研究アドバイザー
- 2) 神奈川県—花王「ME-BYO(未病)女性支援」事業 医療監修・調査アドバイザー
- 3) 医療法人 ADC 疫学調査研究 アドバイザー

津野 香奈美

2 学術論文

- 1) Ito Y, Ueyama J, Nakayama SF, Isobe T, Oya N, Sato H, Ebara T, Yoshimasu K, Tsuno K, Tatsuta N, Nakai, K, Kamijima M. Within-individual and interlaboratory variability analyses of urinary metabolites measurements of organophosphorus insecticides. *J Expo Sci Environ Epidemiol*. 2020;30(4):721-729.
- 2) Eskin M, Tran US, Carta M, Poyrazli S, Flood S, Mechri A, Shaheen A, Janghorbani M, Khader YS, Yoshimasu K, Sun JM, Kujan O, Abuidhail J, Aidoudi K, Bakhshi S, Harlak H, Moro M, Phillips L, Hamdan M, Abuderman A, Tsuno K, Voracek M. Is individualism suicidogenic? Findings from a multi-national study of young adults from 12 countries. *Frontiers in Psychiatry, section Public Mental Health*. 2020;11:259.
- 3) Iida M, Watanabe K, Ando E, Tsuno K, Inoue A, Kurioka S, Kawakami N. The Association between Unit-level Workplace Social Capital and Intention to Leave Among Employees in Health Care Settings: A Cross-sectional Multilevel Study. *J Occup Environ Med*. 2020;62(5):e186-e191.
- 4) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. Workplace responses to COVID-19 associated with mental health and work performance of employees in Japan. *Journal of Occupational Health*. 2020;62(1):e12134.
- 5) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. Workplace responses to COVID-19 and their association with company size and industry in an early stage of the epidemic in Japan. *Environmental and Occupational Health Practice*. 2020;2(1):1-9.
- 6) 松高由佳, 大塚泰正, 飯田順子, 藤圭, 津野香奈美, 島田恭子, 堀口康太, 遠藤寛子. 産業保健スタッフを対象とした性的マイノリティへの適切な対応を促進する研修プログラムの留意点に関する検討. *総合保健科学*. 2020;36:1-11.
- 7) Yaginuma-Sakurai K, Tsuno K, Yoshimasu K, Maeda T, Sano H, Goto M, Nakai K. Psychological Distress and Associated Factors among Japanese Nursery School and Kindergarten Teachers: A Cross-sectional Study. *Ind Health*, 2020;58:530-538.
- 8) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. The deterioration of mental health among health care workers during the COVID-19 outbreak: a population-based cohort study of workers in Japan. *Scandinavian Journal of Work, Environment & Health*, 2020;46(6):639-644.
- 9) Takemura S, Yoshimasu K, Tsuno K, Kuroda M, Kishida K, Mitani T, Miyashita K. Potential hypotensive effects of *Umezu* polyphenols: a 14-week community-based double-masked placebo-controlled trial. *Blood Pressure Monitoring*, 2020;25(6):355-358.
- 10) Sakuraya A, Imamura K, Watanabe K, Asai Y, Ando E, Eguchi H, Nishida N, Kobayashi Y, Arima H, Iwanaga M, Otsuka Y, Sasaki N, Inoue A, Inoue R, Tsuno K, Hino A, Shimazu A, Tsutsumi A, Kawakami N. What kind of intervention is

effective for improving subjective well-being among workers? a systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *Frontiers in Psychology, section Health Psychology*. 2020;11:528656.

- 11) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. Exposure to media and fear and worry about COVID-19. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 2020;74:501-502.
- 12) Kawakami N, Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Imamura K. Downloading a government-issued COVID-19 contact tracing app may improve psychological distress in the outbreak among employed adults: a prospective study. *JMIR Mental Health*. 2021;8(1):e23699.
- 13) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. Deterioration in Mental Health Under Repeated COVID-19 Outbreaks Greatest in the Less Educated: A Cohort Study of Japanese Employees. *Journal of Epidemiology*. 2021;31(1):93-96.
- 14) Sasaki N, Imamura K, Nishi D, Watanabe K, Sekiya Y, Tsuno K, Kobayashi Y, Kawakami N. Internet-based acceptance and commitment therapy programme 'Happiness Mom' for well-being: a protocol for a randomised controlled trial. *BMJ Open*. 2021; 11(2) e042167.
- 15) 佐々木那津、津野香奈美、日高結衣、安藤絵美子、浅井裕美、櫻谷あすか、日野亜弥子、井上嶺子、今村幸太郎、渡辺和広、堤明純、川上憲人. 日本人女性労働者の就労上課題となる生物心理社会的な要因、制度利用状況、期待する職場での研究テーマのニーズ：患者・市民参画（PPI: Patient and Public Involvement）の枠組みを用いたインターネット調査による横断研究. *産業衛生学雑誌*. 2021.2.26 早期公開
- 16) Okubo R, Yoshioka T, Nakaya T, Hanibuchi T, Okano H, Ikezawa S, Tsuno K, Murayama H, Tabuchi T. Urbanization level and neighborhood deprivation, not COVID-19 case numbers by residence area, are associated with severe psychological distress and new-onset suicidal ideation during the COVID-19 pandemic. *Journal of Affective Disorders*. 2021;287:89-95.

3 その他の著作

- 1) 津野香奈美. 新しいハラスメント指針. *産業ストレス研究* 27(2) 285 - 285, 2020
- 2) 津野香奈美. 職場のいじめ・暴力・ハラスメント対策の課題と国際動向. *労働の科学* 75(4): 196-200, 2020
- 3) 津野香奈美. 【カウンセラーの「問う力・聴く力」】産業領域のハラスメント相談対応における問う力・聴く力. *臨床心理学* 20(4): 459-463, 2020
- 4) 津野香奈美. 教えて! 健康管理室のアライさん LGBTQ+従業員支援のための基礎知識(第4回) SOGI ハラって何ですか? *産業保健と看護* 12(5): 463-466, 2020
- 5) 津野香奈美. 【職場のメンタルヘルスに役立つ心理学アプローチ】知識編 概念と理論の正確な理解を目的として 職場の反社会的行動(いじめ・パワハラ)の行為者の特徴. *産業精神保健* 28(特別号): 61-67, 2020
- 6) 津野香奈美. メンタルヘルスとハラスメント予防. *ジュリスト* 1546: 14-20, 2020
- 7) 津野香奈美. パワハラ研究から見えてきた産業保健におけるパワハラ対策. *へるすあつぷ* 21, 11-13, 2020

- 8) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (6) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連のハラスメント. クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線, 2020
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_06.html
- 9) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (7). オンライン上のいじめ・ハラスメント. クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線, 2020
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_07.html
- 10) 津野香奈美. 科学的根拠をもとに進めるメンタルヘルス対策とハラスメント対策 (8). インシビリティ (人としての礼節の欠如) が職場に与える悪影響. クオレ・シー・キューブ ハラスメント情報館 ハラスメント対策最前線, 2021
https://www.cuorec3.co.jp/info/thinks/tsuno_01_08.html
- 11) 津野香奈美. 【パワハラ対策の法制化で会社はどう変わるか 産業保健スタッフとハラスメント】総論 パワハラ防止法を理解しよう. 産業保健と看護 13(1), 6-11, 2021.
- 12) 小林 由佳, 井上 彰臣, 津野 香奈美, 櫻谷 あすか, 大塚 泰正, 江口 尚, 渡辺 和広. リーダーシップの理論と産業保健専門職のリーダーシップへの応用 文献レビュー. 産業医学レビュー 33(3): 225-250, 2021
- 13) 津野香奈美. 【いじめと精神医学】職場のいじめを発生させる組織要因と加害者要因. 精神医学 63(2): 177 - 186, 2021.

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 客員研究員 2013.8～現在
- 2) 日本産業カウンセラー協会 産業カウンセラー 2014.4～現在
- 3) 日本産業ストレス学会 理事・評議員 2014.11～現在
- 4) 日本産業ストレス学会 編集委員 2015.1～現在
- 5) 公益財団法人 21世紀職業財団 ハラスメント防止コンサルタント 2015.3～現在
- 6) 労働時間日本学会 理事 2016.6～現在
- 7) 日本行動医学会 理事 2016.7～現在
- 8) 日本行動医学会 編集委員 2016.7～現在
- 9) 日本行動医学会 将来構想委員会委員長 2016.7～2020.6
- 10) 日本産業衛生学会 代議員 2018.11～現在
- 11) 第27回日本行動医学会学術総会 大会準備委員 2019.4～2020.12
- 12) Journal of Occupational Health Associate Editor 2020.3～現在
- 13) 日本疫学会 疫学専門家 2020.3～現在
- 14) 日本産業衛生学会 編集委員 2020.4～現在
- 15) 厚生労働省「職場のハラスメントに関する実態調査」検討委員 2020.4～2021.3
- 16) 厚生労働省「中小企業におけるハラスメント相談体制実証事業」検討委員 2020.4～2021.3
- 17) 日本行動医学会 国際交流委員会委員長 2020.7～現在
- 18) 神奈川県立循環器呼吸器病センター 研究倫理審査委員 2020.9～2022.8
- 19) 神奈川県立循環器呼吸器病センター 倫理委員 2020.9～2023.3

20) 東京都港区 男女平等参画苦情処理委員 2020.9～2022.9

5 社会貢献

- 1) 厚生労働省「職場のハラスメントに関する実態調査」検討委員会において学識者として助言（通年）
- 2) 厚生労働省「中小企業におけるハラスメント相談体制実証事業」検討委員会において学識者として助言（通年）
- 3) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウムへ登壇（2020年10～11月）
- 4) 神奈川県立循環器呼吸器病センターにおいて、研究倫理審査委員・倫理委員として臨床研究の研究倫理に対し指導・助言（通年）
- 5) 神奈川県 未病産業研究会で講義実施（2021年2月）
- 6) 神奈川県庁 セクシュアル・マイノリティ支援へ助言（通年）
- 7) 神奈川県労働福祉協会で研修を実施（2021年3月）
- 8) 地方公務員を対象とした講演・研修実施（通年）
- 9) ヘルスイノベーション政策センターの丸の内女子に関する調査研究に助言（通年）
- 10) 12か国の大学との自殺に関する国際共同研究実施（通年）
- 11) WHO、ILOとの労働時間に関する国際共同研究実施（通年）
- 12) 東北大学、尚絅学院大学と保育士・栄養士のストレスに関する共同研究を実施（通年）
- 13) 筑波大学、比治山大学、東洋大学とセクシュアル・マイノリティ労働者に関する共同研究を実施（通年）
- 14) 大阪国際がんセンターと禁煙に関する共同研究（日本における社会と新型タバコに関するインターネット調査研究プロジェクト：The Japan “Society and New Tobacco” Internet Survey [JASTIS]）実施（通年）
- 15) 大阪国際がんセンター等とコロナ禍の一般住民を対象にした共同研究（日本におけるCOVID-19問題による社会・健康格差評価研究：The Japan COVID-19 and Society Internet Survey [JACSIS]）実施（通年）
- 16) 大阪国際がんセンター、筑波大学、東京大学等とコロナ禍の妊産婦に関する共同研究実施（通年）
- 17) 東京大学とコロナ禍の労働者に関する共同研究（新型コロナウイルス感染症に関わる全国労働者オンライン調査：The Employee Cohort Study in the Covid-19 pandemic in Japan [E-COCO-J]）実施（通年）
- 18) 東京大学システムティックレビュー・メタアナリシス班メンバーとしてシステムティックレビューを共同で実施（通年）
- 19) 東京大学と母親のメンタルヘルスを向上させるインターネットベースの無作為比較試験を実施（通年）
- 20) 東京大学と女性労働者の困難とストレスに関する共同研究を実施（通年）
- 21) 企業向けハラスメント対策のコンサルティングや教育・研修ツールを監修（通年）

6 講演、放送

- 1) (株)クオレ・シー・キューブ ウェビナー「パワーハラスメントが発生する職場・しない職場～エビデンスに基づいたパワハラ対策～」2020年7月

- 2) 日本生産性本部 オンラインセミナー「データで見るハラスメントの要因と影響
ハラスメント防止・対策セミナー～再発防止に向けた取り組みを考える～」2020年9月
- 3) 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 精神保健学Ⅱ講義「職場のいじめとメンタルヘルス」2020年10月
- 4) 東京大学職場のメンタルヘルス専門家養成プログラムイブニングセミナー 講演「職場のメンタルヘルスの専門家としてハラスメント問題に対応する」2020年10月
- 5) 横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 臨床計量学講義「質問票の翻訳」2020年10月
- 6) 厚生労働省過労死等防止対策推進シンポジウム（福井会場）講演「パワハラを発生させない職場づくり～パワハラ防止法のその先に～」2020年10月
- 7) 厚生労働省過労死等防止対策推進シンポジウム（神奈川会場）講演「パワハラを発生させない職場づくり～パワハラ防止法のその先に～」2020年11月
- 8) 厚生労働省過労死等防止対策推進シンポジウム（東京中央会場）講演「パワハラを発生させない職場づくり～パワハラ防止法のその先に～」2020年11月
- 9) 厚生労働省過労死等防止対策推進シンポジウム（茨城会場）講演「パワハラを発生させない職場づくり～パワハラ防止法のその先に～」2020年11月
- 10) 相模原市役所「パワー・ハラスメントが起こる職場の特徴と防止対策～最近の動向を交えて～」2020年11月
- 11) 浜松医科大学 安全衛生講演会・学校保健講演会 講演「科学的根拠に基づくハラスメント 対策とメンタルヘルス対策」2020年11月
- 12) 慶応義塾大学 産業保健心理学講義「職場のいじめ・ハラスメントとメンタルヘルス」2020年12月
- 13) 未病産業研究会 公衆衛生学入門講座「健康行動科学」2021年3月
- 14) 神奈川県労働福祉協会 職場のハラスメント防止対策講座 職場環境改善編「科学的根拠をもとに進めるハラスメント対策 従業員のパフォーマンス向上のためにできること」2021年3月

7 学会等での活動

(教育講演)

- 1) 第28回日本産業ストレス学会「職場のハラスメントをめぐる最新の動向」, 2020年12月
- 2) 日本産業衛生学会関東地方会第292回例会「職場におけるハラスメント防止対策～研究者の立場から～」, 2021年2月

(シンポジウム)

- 3) 第27回日本行動医学会 教育研修委員会企画シンポジウム「これからの行動医学の教育研修：過去から未来へ」, 2020年12月
- 4) 第27回日本行動医学会 若手の会セミナー「若手よろず相談会 part.2 ～コロナに負けるな！リモートで悩みを共有・解決しよう！～」, 2020年12月
- 5) 日本産業精神保健学会 心理職部会シンポジウム「これからのパワハラ対策ーパワハラ的一次予防、二次予防、三次予防ー」, 2021年2月

(学会発表)

- 6) 津野香奈美, 川上憲人, 堤明純, 島津明人, 井上彰臣, 吉川徹, 小田切優子, 下光輝一. 職場のハラスメントの経済損失: 疾病休業・労働生産性・離職の観点から. 第 93 回日本産業衛生学会, 2020 年 5 月
- 7) 佐々木那津, 津野香奈美, 日高結衣, 安藤絵美子, 浅井裕美, 櫻谷あすか, 日野亜弥子, 井上嶺子, 今村幸太郎, 渡辺和広, 堤明純, 川上憲人. 女性労働者の就労上の悩みと期待する職場での介入研究に関するインターネット調査. 第 93 回日本産業衛生学会, 2020 年 5 月
- 8) 渡辺和広, 川上憲人, 津野香奈美. 労働者の属性、健康関連アウトカム、および心理社会的要因を用いた職場のいじめの検出:機械学習を適用した横断研究. 第 93 回日本産業衛生学会, 2020 年 5 月
- 9) 川上憲人, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎. 新型コロナウイルス感染拡大下のテレワーク勤務者におけるオンラインコミュニケーションと職場の支援および心理的ストレス反応. 第 36 回日本ストレス学会学術総会, 2020 年 10 月.
- 10) 飯田真子, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人. 新型コロナウイルス感染症に関連した職場のハラスメントの頻度と関連要因の検討: 労働者コホート研究. 第 28 回日本産業ストレス学会, 2020 年 12 月
- 11) 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人. 企業における新型コロナウイルス感染症対策が従業員のメンタルヘルスと仕事のパフォーマンスに与える影響. 第 28 回日本産業ストレス学会, 2020 年 12 月
- 12) 川上憲人, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎. 新型コロナウイルス感染拡大下のテレワーク勤務者におけるオンラインコミュニケーションと職場の支援および心理的ストレス反応. 第 28 回日本産業ストレス学会, 2020 年 12 月
- 13) 柳沼梢, 津野香奈美, 吉益光一, 齋藤長徳, 笠原賀子, 仲井邦彦. 管理栄養士・栄養士のストレス状況に関する横断調査. 日本衛生学会学術総会, 2021 年 3 月

(座長)

- 14) 第 28 回日本産業ストレス学会 産業心理職委員会企画シンポジウム「マネージャーの主体的朗働～部下と共に元気な組織を作る～」, 2020 年 12 月

8 学内教育活動

- 1) 健康行動科学 (ヘルスイノベーション研究科, 科目責任者)
- 2) 社会健康学・社会疫学 (ヘルスイノベーション研究科, 科目責任者)
- 3) 産業保健学 (ヘルスイノベーション研究科, 講義を 7 回担当)
- 4) ヘルスイノベーション演習基礎 (ヘルスイノベーション研究科)
- 5) 修士論文指導 6 名 (指導教員 2 名、副指導教員 4 名)

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査会委員 (通年)
- 2) ヘルスイノベーション研究科企画担当委員 (通年)
- 3) ヘルスイノベーション研究科学生担当委員 (通年)
- 4) ヘルスイノベーション研究科面接委員 (一次選考)

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 2019～2021 年度日本学術振興会 科学研究費補助金 若手「労働時間や職場風土と従業員の健康・生産性との関連：職場外要因を含めた複合的検討」(課題番号：19K19439) 研究代表者

渡邊 亮

2 学術論文

- 1) Suwanai, H., Watanabe, R., Sato, M., Odawara, M., & Matsumura, H. (2020). DPP-4 Inhibitor Reduces the Risk of Developing Hypertrophic Scars and Keloids following Median Sternotomy in Diabetic Patients: A nationwide retrospective cohort study using the National Database of Health Insurance Claims of Japan. *Plastic and reconstructive surgery*, 146(1), 83-89.
<https://doi.org/10.1097/prs.00000000000006904>.
- 2) 松村一, 佐藤宗典, 諏訪内浩紹, 渡邊亮. (2020). 「ケロイド・肥厚性瘢痕に対する薬物療法の展望」『ケロイド治療ジャーナル』14: 11 – 13.

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 一社)日本医療情報学会 医療情報技師育成部会広報渉外委員会委員
- 2) 一社)日本医療情報学会 選挙管理委員会委員
- 3) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 科学技術調査員
- 4) 一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター 客員研究員
- 5) かながわ健康プラン 21 目標評価ワーキングチーム 構成員
- 6) 公衆衛生大学院プログラム校連絡会議 構成員
- 7) 一般社団法人日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会 医療情報基本法推進プロジェクト委員会 委員
- 8) 一般社団法人次世代基盤政策研究所 上席研究員
- 9) 神奈川県政策局ヘルスケアニューフロンティア推進本部室 アドバイザー

5 社会貢献

- 1) 神奈川県「新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部保健所支援者」(県保健福祉事務所への支援)
- 2) 東京医科歯科大学医歯学総合研究科非常勤講師

6 講演, 放送

- 1) 未病産業研究会主催「公衆衛生学入門講座」講師
- 2) 神奈川県主催(イノベーション政策研究センター受託事業)「健康づくりのためのデータ活用研修 2020」講師
- 3) 九州大学大学院医学系学府「医療経営学」講師
- 4) 神戸大学「課題解決型高度医療人材養成プログラム 実践的病院経営マネジメント人材養成プラン」講師
- 5) 東京理科大学工学部「キャリアデザイン」講師
- 6) 一橋大学「HIAS Health 社会連携プログラム 第3回医療経済短期集中コース」チューター

7 学会等での活動

- 1) 鄭雄一, 坂巻弘之, 渡邊亮: 神奈川県立保健福祉大学における専門職教育と公衆衛生活動の統合に向けた取り組み. 第79回日本公衆衛生学会総会(京都市・オンライン), 2020年10月

8 学内教育活動

- 1) 健康・医療政策 (ヘルスイノベーション研究科修士1年前期, 科目責任者)
- 2) ヘルスケア管理学 (ヘルスイノベーション研究科修士2年前期, 科目責任者)
- 3) 未病社会のライフデザイン (ヘルスイノベーション研究科修士1年後期, 科目責任者)
- 4) 演習基礎 (ヘルスイノベーション研究科修士1年後期)
- 5) ヘルスイノベーション研究科修士課程学生 指導教員
- 6) ヘルスイノベーション研究科修士課程学生 指導補助教員
- 7) ヘルスイノベーション研究科修士課程課題研究 主査
- 8) ヘルスイノベーション研究科修士課程課題研究 副査

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究科長特別補佐
- 2) ヘルスイノベーション研究科 運営委員会委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 入試委員
- 4) ヘルスイノベーション研究科 企画担当委員
- 5) 地域貢献研究センター地域貢献部門 委員
- 6) イノベーション政策研究センター プロジェクト担当
- 7) 神奈川県立保健福祉大学誌 査読委員

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 「医薬品・医療機器の費用対効果評価における NDB の活用可能性の検証」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2017年4月-2021年3月. 代表者: 渡邊亮.
- 2) 「高感度トロポニンTを用いた0-1hrアルゴリズムの導入医療費の削減効果の検討」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2018年4月-2023年3月. 代表者: 井上健司.
- 3) 「公的資金が投入されている医療の公共性と公共財としての在り方に関する研究」日本学術振興会: 基盤研究(B). 研究期間: 2020年4月-2023年3月. 代表者: 小林大介.
- 4) 「急性期病院におけるフレイルおよび高齢者の総合的アセスメントに関する研究」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2019年4月-2023年3月. 代表者: 大西丈二.
- 5) 「医療機関における経営企画機能のあり方に関する調査研究」日本学術振興会: 基盤研究(C). 研究期間: 2017年4月-2021年3月. 代表者: 阪口博政.
- 6) 「携帯電話関連技術を用いた感染症対策に関する包括的検討」社会技術研究開発セン

ター：科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム。研究期間 2020 年 9 月-2023 年 8 月。代表者：米村滋人。

Thomas Svensson

2 学術論文 Published academic articles

【Original articles with peer-review】

- 1) Staffini A, Svensson AK, Chung U-I, Svensson T.
An Agent-Based Model of the Local Spread of SARS-CoV-2: Modeling Study. JMIR Med Inform. 2021;9(4):e24192.
- 2) Aida, A., Svensson, T., Svensson, A. K., Urushiyama, H., Okushin, K., Oguri, G., . . . Chung, U.-I. (2020). Using mHealth to Provide Mobile App Users With Visualization of Health Checkup Data and Educational Videos on Lifestyle-Related Diseases: Methodological Framework for Content Development. JMIR Mhealth Uhealth, 8(10), e20982. doi:10.2196/20982
- 3) Miyashita, H., Nakamura, M., Svensson, A. K., Nakamura, M., Tokuno, S., Chung, U. I., & Svensson, T. (2020). Association Between Electroencephalogram-Derived Sleep Measures and the Change of Emotional Status Analyzed Using Voice Patterns: Observational Pilot Study. JMIR Form Res, 4(6), e16880. doi:10.2196/16880
- 4) Miyashita, H., Svensson, T., Nakamura, M., & Svensson, A. K. (2020). The Association Between Hemoglobin Upswing in the Reference Range and Sleep Apnea Syndrome. Sleep and Vigilance, 4(2), 205-212. doi:10.1007/s41782-020-00093-6

【Review articles with peer-review】

- 5) Aida, A., Svensson, T., Svensson, A. K., Chung, U.-I., & Yamauchi, T. (2020). eHealth Delivery of Educational Content Using Selected Visual Methods to Improve Health Literacy on Lifestyle-Related Diseases: Literature Review. JMIR Mhealth Uhealth, 8(12), e18316. doi:10.2196/18316

4 学会，協会，公的団体の委員など Membership of academic conferences, academies, and public institutions

- 1) Project researcher at the Precision Health group, Department of Bioengineering, the University of Tokyo. My research uses digital health data and big data with a specific focus on stress and sleep.
- 2) Visiting researcher at the National Cancer Center, Japan. My research uses the largest longitudinal cohort study in Japan (the Japan Public Health Center-based Prospective Study).
- 3) Researcher at Lund University, Sweden. My research focuses on novel biomarkers and genomic research in a general population cohort.
- 4) Member of the Japan Epidemiological Association
- 5) Member of the Swedish Society of Medicine
- 6) Member of the Swedish Medical Association

5 社会貢献 Regional contributions and contributions to society

- 1) Member of the organizing committee for a symposium in Okinawa on the topic of Longevity and Healthy Ageing. The symposium is organized by the Royal Swedish Academy of Sciences and the Journal of Internal Medicine. The symposium will be held between October 29-30, 2021.
- 2) I am involved in a collaborative project with Kanagawa prefecture analyzing the Kanagawa Database (KDB).

7 学会等での活動 Activities at academic conferences

- 1) Member of the organizing committee for a symposium in Okinawa on the topic of Longevity and Healthy Ageing. The symposium is organized by the Royal Swedish Academy of Sciences and the Journal of Internal Medicine. The symposium will be held between October 29-30, 2021. Symposium website:
https://www.trippus.net/JIM_KeySymposium_Okinawa2021

8 学内教育活動 Educational activities at KUHS/SHI

- 1) Course manager of “Introduction to Epidemiology”
- 2) Course manager of “Oral presentation”
- 3) Course manager of “Global Health Policy”
- 4) Supervising 4 Masters’ Students
- 5) Guest lecturer for the course “Injury control”.

9 学内各種委員会活動 Activities of various committees at KUHS/SHI

- 1) Chairman of the International Affairs committee
- 2) Serving on the Steering committee
- 3) Serving on the Admissions committee
- 4) Serving on the COI

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託 Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI) or other grants

- 1) Grant-in-Aid for Early-Career scientist, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). Duration: 2019.04 – 2021.03. Title of the research project: “A 12-month longitudinal study using deep learning techniques on objective and subjective sleep data”. The total amount received is 3,000,000 Yen.

13 特許など Patents and Copyrights

- 1) Application number: 2020-115700. Name & Contents: Health support devices, health support methods and programs.

14 その他 Other works

- 1) Ongoing international collaboration with Lund University in Sweden.

中村 翔

2 学術論文

- 1) Narimatsu H, Sakaguchi M, Nakamura S, Katayama K. Future Patient Incidence in Hemato-Oncology: A Study Using Data from Cancer Registries in Japan. Risk Manag Health Policy. 2020; 13: 2407-2414.

3 その他の著作

- 1) 中村翔. 腫瘍内科医としてがん教育にかかわること. ON CANCER がん患者と共に歩む (がん教育情報誌). 2020 年夏号 (冊子) およびオンライン記事 (<https://on-cancer.jp/>).

4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県 ME-BYO リビングラボ専門委員 (平成 31 年 4 月～)
- 2) 神奈川県新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部搬送調整班 (令和 3 年 1 月～)
- 3) 一般社団法人 全国がん患者団体連合会 (全がん連) がん教育外部講師.
- 4) 一般社団法人日本内科学会正会員, 認定内科医.
- 5) 一般社団法人日本癌治療学会正会員.
- 6) 公益社団法人日本臨床腫瘍学会正会員, がん薬物療法専門医.
- 7) 日本癌学会, 正会員.
- 8) 一般社団法人日本人類遺伝学会, 正会員.
- 9) 一般社団法人日本公衆衛生学会, 正会員.
- 10) 公益社団法人日本産業衛生学会, 正会員.
- 11) 一般社団法人日本疫学会, 正会員.
- 12) 一般社団法人日本家族性腫瘍学会, 正会員.
- 13) Society for Epidemiologic Research, 正会員.
- 14) International Epidemiological Association, 正会員.
- 15) 公益社団法人日本オペレーションズリサーチ学会, 正会員.

5 社会貢献

- 1) 中村翔. 社会と情報 プログラミング基礎 (がん統計). 神奈川県教育委員会, 神奈川県, 神奈川県がん教育協議会主催. 令和 2 年度神奈川県外部講師を活用したがん教育研究授業. 神奈川県立足柄高等学校. 令和 2 年度 11 月 (計 5 回).
- 2) 中村翔. 職場におけるメンタルヘルスについて. 山形県東置賜郡高島町福祉こども課障がい者福祉係主催 「町職員ゲートキーパー養成講座」. 令和 3 年 2 月 5 日. (高島)
- 3) 中村翔. 血圧管理なぜ、大事?～今日からできる減塩生活～. 山形県東置賜郡高島町高血圧予防教室. 令和 3 年 2 月～3 月. (高島)

6 講演, 放送

- 1) 中村翔. 生活習慣と DNA の関係性を解き明かす「神奈川県みらい未病コホート研究」の取組み. ME-BYO Japan 2020 来場者向けセミナー (神奈川県からの招聘講演).

令和2年10月14日（横浜）

- 2) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「胃がん（X線・内視鏡）検診の結果」. 第3回横浜市医師会 胃がん（X線・内視鏡）検診精度管理委員会. 令和3年3月17日（横浜[オンライン開催]）
- 3) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「大腸がん検診の結果」. 第3回横浜市医師会 大腸がん検診精度管理委員会. 令和3年3月17日（横浜[オンライン開催]）
- 4) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「乳がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 乳がん検診精度管理委員会. 令和3年3月22日（横浜[オンライン開催]）
- 5) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「子宮がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 子宮がん検診精度管理委員会. 令和3年3月22日（横浜[オンライン開催]）
- 6) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「肺がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 肺がん検診精度管理委員会. 令和3年3月24日（横浜[オンライン開催]）
- 7) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「前立腺がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 前立腺がん検診精度管理委員会. 令和3年3月24日（横浜[オンライン開催]）

7 学会等での活動

- 1) 早内玄, 有吉亮, 齋藤義信, 小熊祐子, 中村翔, 中村文彦. 交通と健康の関連についての既往研究と課題. 第62回土木計画学研究発表会・秋大会. 口演. 令和2年11月14日（長野[オンライン開催]）
- 2) 市原青葉, 小熊祐子, 齋藤義信, 成松宏人, 中村翔, 粕川隆士. ヘルスケアロボットHALの運動プログラムが身体活動・身体機能に与える影響について. 第79回日本公衆衛生学会総会. 一般演題（示説）. 令和2年10月20日（京都 [オンライン開催]）
- 3) 長澤誠, 中村翔, 小熊祐子, 齋藤義信, 粕川隆士, 成松宏人. HAL腰タイプを使用した運動プログラムがフレイル状態にある高齢者の運動 Self efficacy へ与える影響について. 第8回日本支援工学理学療法学会学術大会. 口述. 令和2年11月13日（埼玉 [オンライン開催]）
- 4) 中村翔, 齋藤義信, 成松宏人. Quality of life 関連指標と ME-BYO index との関連. 第31回日本疫学会学術総会. オンデマンド口演. 令和3年1月27 - 29日（佐賀[オンライン開催]）
- 5) 齋藤義信, 小熊祐子, 今村晴彦, 田島敬之, 中村翔, 成松宏人. フレイルと住民主体のグループ運動との関連：横断研究. 第31回日本疫学会学術総会. オンデマンド口演. 令和3年1月27 - 29日（佐賀[オンライン開催]）
- 6) 田中琴音, 中村翔, 中島啓, 成松宏人. 低血糖と抑うつ状態の関連第. 31回日本疫学会学術総会. オンデマンド口演. 令和3年1月27 - 29日（佐賀[オンライン開催]）

8 学内教育活動

- 1) 大学院（修士課程）
 - 2) 疫学研究 / 疫学演習 / 臨床試験 / ヘルスイノベーション演習基礎 / ヘルスイノベーション演習
- 9 学内各種委員会活動
- 1) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査委員
 - 2) 図書委員会
- 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託
- 1) 科学研究費助成事業 若手研究. 課題番号：20K19713「BMI 関連遺伝リスクと生活習慣の相互作用を肥満対策へ実用化する研究」.（代表研究者）
 - 2) 厚生労働科学研究費補助金. 疾病・障害対策研究分野 がん対策推進総合研究. テーマ「全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨」.（分担研究者）
 - 3) 科学研究費助成事業 基盤研究（C）. 課題番号：20K10420「要介護高齢者の自立支援型介護の効果と介護事業者へのインセンティブメカニズムの研究」.（分担研究者）
 - 4) 神奈川県委託事業. 未病指標の精緻化等に関する実証事業.
 - 5) 神奈川県委託事業. 新型コロナウイルスの不顕性感染の実態調査.
 - 6) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（令和2年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業）. ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出.
 - 7) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（文部科学省. イノベーションシステム整備事業. 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム）「神奈川発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト」神奈川県みらい未病コホート研究（ハイブリッドゲノムコホート研究）.
 - 8) 横浜市委託事業，横浜市医師会共同研究. 横浜市がん検診データとがん登録データの連携.
- 11 学内研究助成金の受託
- 1) ヘルスイノベーション推進研究費. 「グローバルヘルスに還元するがん対策：Kanagawa Shanghai 比較共同研究」.（分担研究者）
- 14 その他
- 1) 慶應義塾大学スポーツ医学研究センター、神奈川県立がんセンター、湘南ロボケアセンターとの共同研究. ヘルスケアロボットを活用した介護予防プログラムの開発（神奈川県みらい未病コホート研究を基盤としたランダム化比較試験）.
 - 2) 株式会社メタジェン，地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所との共同研究. 新型コロナウイルス抗体保有者の生活習慣や腸内環境を解析する共同研究.
 - 3) デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」の行動変更へのインパクト評価に関するパイロット研究.
 - 4) 民間企業 2 社（フィットネス提供およびゲノム解析企業），神奈川県立がんセンターとの共同研究. 肥満の遺伝学的リスクスコアと食事・運動介入プログラムの効果に関

する研究。

- 5) 厚生労働省老健局老人保険課. 要介護認定情報等の提供に関する承諾 (要介護高齢者の自立支援型介護の効果と介護事業者へのインセンティブメカニズムの研究).
- 6) 科学研究費助成事業 新学術領域研究 (研究領域提案型) 『学術研究支援基盤形成』. 課題番号: 16H06277 「コホート・生体試料支援プラットフォーム」 (分担研究者 成松宏人) における, 神奈川サイトである神奈川県みらい未病コホート研究の事務局長として, ゲノムコホート研究の運営. <https://www.me-byo-cohort.jp/>
- 7) 横浜市医師会との共同研究. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ共同研究.

方 雪敏

1 著書

- 1) (In progress) Data Visualization & Storytelling
- 2) (In progress) Cleaning, Visualization and Modeling: A Smartphone Application Data Example Using R

2 学術論文

【First author】

- 1) A web visualization tool using T cell subsets as the predictor to evaluate COVID-19 patient's severity. PLoS ONE 15(9): e0239695.
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0239695>
- 2) Arbidol Hydrochloride treatment with reduced mortality of adult patients with COVID-19: A retrospective cohort study, Accepted by Frontiers in Medicine

【First&correspondent author】

- 3) Simultaneous comparison of 22 acute migraine medications from smartphone application data: a real-world patient experience study using 10 million migraine attack records, to be submitted

【Co-author】

- 4) Multinomial Logistic Regression and Prediction Accuracy for Interval-Censored Competing Risks Data, Submitted, Biometrical Journal.
- 5) Doubly Robust Estimate for Longitudinal Data, Submitted, Biometrics

3 その他の著作

- 1) 独自の開発の統計ウェブアプリ CDA、生物統計学の教材として使用
- 2) 新型コロナウイルス重症患者のアウトカム予測 AI ウェブアプリ
<http://ec2-18-182-45-160.ap-northeast-1.compute.amazonaws.com:3838/COVID-19/>

4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) American Statistical Association
- 2) International Chinese Statistical Association
- 3) 日本統計学会

5 社会貢献

- 1) NGO founder&代表: Japan data scientist club (SHI の学生との共同エフォート、日本におけるデータサイエンティストの育成、交流、コラボ)
- 2) International ALDH2 Research Consortium
- 3) Zhihu (中国 Q&A フォーラム、公衆衛生、生物統計、医療話題の VIP, フォロワー3)

万1千人)

- 4) 神奈川県新型コロナウイルス不顕性感染の実態調査へ協力
- 5) 神奈川県 Covid-19 抗体調査へ協力
- 6) 東北大学 ToMMo ゲノム解析部門非常勤講師

6 講演, 放送

- 1) 未病産業研究会超入門公衆衛生学講座開講 (生物統計学)
- 2) 「ウィズコロナ時代のデータヘルス 必要な人材とその育成」 キャンサースキャン代表取締役社長 福吉潤氏と、SHI の方雪敏講師との対談

7 学会等での活動

- 1) Stanford Alzheimer's Disease Research Center, Data Management & Statistics Core group meeting
- 2) (Upcoming) 3rd International conference on digital health, 研究発表

8 学内教育活動

- 1) 生物統計学基礎 (参加者 19 名)、15 コマ
- 2) 生物統計学演習 (参加者 23 名)、15 コマ
- 3) 生物統計学応用 (参加者 10 名)、15 コマ
- 4) データ統計解析演習 (参加者 10 名)、15 コマ
- 5) 指導、副指導、アドバイスする SHI 学生 8 名。月に一回グループゼミ、1 対 1 個別指導、プログラミング、SCI 論文作成の指導
- 6) Special workshop: How to set up Rstudio server and Shiny server on a AWS (Amazon Web Service) EC2 instance
- 7) Special webinar: Demonstration of a machine learning example using Python
- 8) 学内向け新型コロナウイルス感染症に係る教員の実践報告発表
- 9) 学内 2020 年度 オンライン研究発表会で研究発表

9 学内各種委員会活動

- 1) 国際関係委員会
- 2) FDSO 委員会
- 3) 広報委員会

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) なし

13 特許など

- 1) (Upcoming) 音声よりうつ病を検知する新たな手法 (出願人: PST 株式会社および SHI)

14 その他

Ongoing researches:

- 1) (担当) Personalized medicine based on a big data study using smartphone log files of migraine records: Mayo Clinic (US), Healint (Singapore), University of Pittsburgh (US)
- 2) (担当) Time series clustering to identify depression or Alzheimer patients using voice recording data: Tokyo University, PST (Japan)
- 3) (担当) Keloid risk in patients with atopic dermatitis: University of Calcutta (India)
- 4) (担当) Sex difference in diabetic risks in Japan: JMICC (Japan)
- 5) (協力) Gene-environmental risk interaction in BMI: ToMMo (Japan), Kanagawa Cancer Center (Japan)
- 6) (担当) ALDH2 gene mutation in Asian population and its health effect: Stanford University (US)
- 7) (担当) Cross-over cohort study to evaluate the treatment effect of MTM on BOP and tooth loss: Apple Dental Clinic (Japan)
- 8) (協力) Comparison of lung cancer and CRC data in Kanagawa Prefecture and Shanghai: Shanghai Songjiang CDC (China), Kanagawa Cancer Center (Japan)
- 9) (担当) Comparison of NC-6004 plus gemcitabine combination treatment to gemcitabine alone in patients with locally advanced or metastatic pancreatic cancer: Shanghai Jiao Tong University School of Medicine (China)
- 10) (担当) A novel meta-analysis for the covid-19 patients' survival curves
- 11) (協力) Tumor size reduction comparative study for mice with PD-1 treatment, 実中研
- 12) (Upcoming 協力) Counter-factual analysis of the big data from the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan: Waseda University
- 13) Journal peer reviews:
 - (ア) Regenerative Medicine: 1 research article
 - (イ) Journal of Statistical Research: 1 research article
 - (ウ) Statistics and Its Interface: 2 research articles
 - (エ) PlosOne: 1 research article